

潜  
齋

篋  
鑑  
輪  
下  
方  
竟  
千  
梅





獲纒輪 卷之五

方竟千梅選

活法之書伊呂波寄ノ内名目而已  
出テ難辨物并蕉門去嫌大畧



以

一 岩船山 河内ノ国交野ノ郡ニ有山頂ニ大サ五丈八カリ

ノ岩ニテ造リタル船アリ人作ニアラス神物ニ神書

下照姫大國主命ノ天ノ磐船ニ乘シテ高津山ニ

降臨シ玉フト云岩船ト云下照姫ノ社ハ撰列

高津ニ有リ今世俗仁徳天皇ノ社ト云爰ニ仁徳

帝ノ御歌モアハ後人同社ニ祀レルモノカ其岩船

河内ノ国ニ止テ岩船山ト云高津ノ社ノ舊地ト相去



コト三里ノ活法ノ書ニ岩船水辺ニアラス山類ト記セル  
モノ慥ニ此岩船ノコトシサラハ句ニヨリ神祇ニ成ヘシ  
仁徳天皇飛ヒカケルアノ岩船尋子ヲソ高津ノ里ニ宮作リケル

一 岩橋 二所有 井手ノ岩橋 又采ノ岩橋シ山城ノ国  
井手ノ岩橋ハ水辺シ 又采ノ岩橋ハ高山ノ切途ニ  
カ、リテ水辺ニアラス 昔役ノ行者此山ニ入テ山神ニ  
岩橋ヲ造ラシム此神女神ニシテ其貌ノ甚カクキ醜ミナクキヲ  
耻テ夜ルノ三出テ橋ヲ造リ侍ル依テコレヲ人  
目ノ岩橋トモ云リ是大和国葛城山一名金剛山ニ立  
此山大和河内西国ニ属ス  
名寄集通ヒコレ井手ノ岩橋タトルマテ取モサラス咲ル山ヲ

指遺集 岩橋ノ夜ノ樂モ絶ヌヘシ明ルロシキ葛城ノ神

一 命ニタミキワル七句去 夕ミキワルト云詞ハタミキハル魂タミキハル窮ノ  
略語ナレハ命キワル意シ

一 伊勢ノ神 非名取ニ名神名取ニアラスト云下ニ委記

一 偽ニ真ニ二句去 是人ノ意詞同胸中ヨリ出ル  
コトナレハ去嫌フシ 化テ上下黑白輕重厚薄等  
ノ文字ハ互ニ去嫌ナシ

一 漁イサガトハカリハ夜分ニアラス水辺ノ三シ



一 イワケナキ 幼童ノコトシキナイ言、ワケナキト云略シ

一 出ル目 活法ノ書ニ非朝晩分ニト記セリ是人ノ身上  
ナドノ盛ナルヲ父トエテ云カ又ハ天ノ磐戸ノコト云  
句ハイカモ非朝時分ニ句ニ依テ食議スヘシ

一 イモセ 人倫妹ハ婦イモ脊ハ夫イモシ 名取ノ妹脊山ハ

大和紀列ニ説シ

古今流レテハイモセ山ノ中ニ落ル吉野ノ河ノヨシヤ世ノ中  
或ハ又紀ノ河ヅラノ妹ト脊ノ山トモヨメリ

一 イモガリ 女ノモトへ行クシ

古今思ヒカ子妹ガリ行ケハ冬ノ夜ノ河風寒ニ子鳥ナクシ

波

一 花 一件ノコト予カ袖中正花傳ニ委ケル此ニ畧ス

一 濱庇 ハミヒサシ濱エ浪ノ打上ケタル砂ノ形チ庇ニ似タルヲ云シ

非居乘ニ又濱ノ家居ニ庇ノアル家ヲモ云然ル時ハ  
居取水辺勿論シ

一 初汐 問フ八月ノ大汐ニ初ノ字用ユルハ不審シ曰  
初ノ字ニアラス或記ニ葉月ノ汐ト云略シト云  
此説最ヨロシ知月サ皐月ノ波ヲウナシ  
サナミト云シト云ニ



一 畑 畠 二字トモニ倍字シ村上ノ朝ヨリ此兩字ヲ用ユ  
ト古記ニニエタリ正字圃ハタシ和尔雅ニ本朝ノ俗謂テ  
水田ヲ為田ト稱シ陸田ヲ謂フ畑ト記セリシタマキニ  
畑山類シト記ノ山類ノ部ニモ出セリ非山類ニ陸田  
ノ名シ箱根ノ畑ト云ハ取ノ名シ山類シ不可混ス

一 秤ハカリ 子ギレイテング 秤ハカリハ大秤ハカリノ付キタルモノシ  
レイテングトハ銀秤ノ稱シテ釐シ等具シ唐韻ノ  
訛言シトソカウリ毫釐リシ正ス具ト云コトシ

一 初モトエヒ 元服ノコトシ  
源氏イトケナキ初モトエニ長キ世ヲ契ル心ハ結ヒコメツヤ

一 ハチフク 源氏ノ詞シ蜂吹シ松風ノ卷ニ鼻ウチ  
アカメツ、ハチブキ云ヘバト云ニ其外若菜ノ卷  
ニモ此言アリ信ニ蜂拂フト云意ノ詞シ

一 化物 夜方シ非生類ニ

一 蓮上ノ契 活法戀トセリ一蓮托生ト云ハ釈  
教ノ言シ一槩ニ不可論ス

一 仁ニホ 鳩ニホ 湖ニホノ海 鳥ノ名ト海ノ名ナレハ付テ不苦ト活  
法ノ書皆記セリ蕉門面ヲ嫌フニホハ湖水ノ和  
名シ故ニニホテル比叡トモニホテルヤ矢橋ノ浦トモ



ヨメリニホノ海トハ湖水ニ限ノ名シ此海ニニホ鳥  
沢山ニ生育シテ湖中東西南北居ラヌ取ナケ  
レハニホノ海ト云シ湖ノ字ヲニホト和訓スルモ此  
鳥ヨリ名付タルコト明シ然レハ同意ノ物シ湖ノ  
ウミ鳩ニホトリ同シ面ニスヘカラス鳩倍字シ鳩ノ字宜  
トソ一名カイツブリ關東ノ方言ムグツ鳥ウグツ

一ニゲナシ 似氣無シ 似合ヌト云詞シ源氏ナトニ  
多ク出タル言葉シ

一贄ニエ 凡ソニエト云ハ人ニ令食レ物ヲ云シ 公ニ献ルヲ  
御贄ニエト云 神ニ供スルヲモ 神贄ニエト云フ 調テ之ヲ

取ヲ贄殿ト云シ

一ニハタヅミ 元トハ庭タマリ水ノ略語シ然トモ潦ミカサノ  
字有テ庭ノタマリ水バカリシ云ニフラス道路  
牛馬ノ足跡ニ溜リタル水ニテシ 潦ミカサト云レハ蕉  
門居取トセス庭ノ字水ノ字ニハ二句去シ

保

一ホテクロシ 源氏ニ内ニニテ腹立ルシ腹グロニ思フ  
玉フト取ニ見エタリ或ハ子タニシキ事又常ハラ  
ダツシモ腹黒ト云リ 和字書ニ肥腹フシホテ  
ハラト訓ス畿内江東辺ノ俗腹フシホテト云リ  
ホテ黒シハ則腹黒シ或ハ罷テニホコリテ悪ム



ヘキモノ ワルジヤレニテイヤラシキ者ヲホテ名  
シイヤツト云し句ニヨツテ戀ニモ成ヘシ

一 陪堂 ホイトウ 釈教トス庭訓ノ抄ニ飯米ヲ副僧ト  
記セリ又僧家ノ一説無役不用ノ僧ヲ云  
トソ北国ニテ乞食ヲホイタウト云何ニ卑  
賤ノ僧ノ称シ

一 辺 ヘ 大壓面 オホベシ ト云能ノ偶面 オモヘ 鬼面 オニ ニ似タリ

一 ベキベシハ 文字ニアラス手介於葉し中ニアラス  
二句去留リニアルハ三句去ヘシ

一 遠山鳥ノ狩衣 ユロモ 衣ノ模様シ後撰集ニシノビテ  
通ヒケル女ノモトヨリ狩装束送リテ侍リケルニ  
摺レル狩衣ニテ侍リケルハ 元良ノ御子  
逢コトハ遠山鳥ノカリ衣キテハ甲斐ナキ音ツクニ流  
山鳥ノ形ヲ摺リタル狩衣ニテ有ケルトナン

一 床ノ浦 床ノ海 トコノ山 床ノ字ニ面輝フモノノ内  
出セリ此中ニトコノ山ハ床ノ字ニアラス鳥籠ノ  
山シ江列ノ名取シ床ノ字ニカミイナシ但シ床  
意ニ云イカケタル句ナラハ見渡遠慮スヘシ

一 豊ノ御狩 天子ノ御狩ヲ云シ仁徳天皇ノ



賜野ノ御狩 雄略帝ノ猪名野ノ御狩ナトシ  
又豊ノ御祓トハ大嘗會ノ御穰ヲ云シ

一 遠里小野 横列ノ名取シ住吉ノ東ニ有昔此取ヨリ

始テ燈ノ油ヲ榨出セリトソ今ニ住吉ノ神燈ノ油ハ當取ヨリ  
遠里小野トモ云 歌ニハトツザト小野トヨメリ  
新勅撰 住吉ノ岸ノ嵐モ霞ムシ 遠里小野ノ春ノ曙

一 直宿モル 土君或ハ尊貴ノ寝取ツ守ル夜詰  
ノ役シ俗ニ云 泊リ番

一 魚ツ トト云ハ上古ノ詞ニテ今モ上ニツカタニテハ

トトノタニヘリ毛詩ニ魚服トトノヤナグイト  
訓讀セルモ本邦ノ詞魚ニトトノ名有ルヲカリ  
用ヒタルモノシトソ毛詩ノ魚服ハ海獸ノ皮ノヤナ  
クイシ委註ニニユ

一 父ヲ 鄙俗トト云フ 爺ニ又 爹ニシ 兩字  
共ニトトノ通音シ

一 鳥カ鳴ク東 壺囊抄ニ玄中記ニ曰ク 東南ニ  
桃都山アリ山上ニ大樹ノ桃有枝相去ルコト  
三千里上ニ有天雞 日初テ出テ桃樹ヲ照ス  
時天雞發聲ヲ天下ノ家雞皆傳之ヲ鳴ト



云ニコレフ本據トシテツ、ケタル詞トソ東国ヲ  
アツミト云事 日本武ノ尊ヨリ始ル世知ル事

一外ノ衛<sup>ト</sup> 職原ニ曰ク外衛ト云ハ六衛府ノ中<sup>中</sup> 左右  
ノ衛門督 左右ノ衛門佐 此四官ハ禁中ノ外門  
ヲ衛護スル 役ナルニ依テ外衛ト名ト云ニ

一常盤木ノ落葉 松竹ノ落葉雜ナト、記セリ  
古翁ノ句ニ 清滝ヤ波ニ散コム 青松葉  
是松ノ落葉シ 其ノ證句シ 竹モ是ニ准スヘシ

一茶<sup>知</sup> 活法ノ書ニカキ茶 新茶春シト記ス凡ソ

茶摘ト云ト新茶ト云ニ差別アリ故ニ春<sup>春</sup> 其ノ論  
アリ三月ノ部ニモ略<sup>略</sup>記スソレ茶ハ洛東建仁寺ノ  
閑山千光国師宋ニ入テ好茶ノ種ヲ携来リ後チ  
梅ノ尾ノ明惠上人ニ與テ依テ梅ノ尾ニ植<sup>植</sup>始<sup>始</sup>之<sup>之</sup>  
後鳥羽院ノ御時シ其後宇治ニ移ス從是先ニ本  
朝ニ茶有リトイヘトモ可<sup>可</sup>賞<sup>賞</sup>翫<sup>翫</sup>モノニアラストソ然レハ  
茶ハ宇治ヲ元トス茶摘春ト究メタルハ宇治ノ茶摘  
其嫩<sup>嫩</sup>葉<sup>葉</sup>ヲ摘ムユニ他列ヨリ廿日餘モ早ニ他列ニ  
茶ヲ摘ムハ四月半五月エカ、ル 翁ノ句ニ  
木<sup>木</sup>カクレテ茶ツミモ聞ヤホト、キス  
是世間茶ヲツム時候ヲセラレタル句ニ新茶  
云時ハコレヲ製シ納メテ諸国ニ配リ出シ或ハ先



ニテ賞味スル時シ云然レハ其勿論シ既ニ其切  
茶ト云モ六月ノ取ニ出タリ是則新茶シサレハ  
茶ツミカキ茶葉撰ナト云句其時節ガラトモニ  
宇治ト聞ユルハ最春新茶シ風味シ又其句モ等  
シ賞スル句ハ其之季細ニ辨スレハ如是先ハ茶  
摘春新茶其ト可心得コレ師説シ

一 千鳥ノ滝

栲列ノ名取シ滝ハ都ラ水辺山類シ

シカレトモ此滝ハカリハ山類トスヘカラス

深山カト思ヒ来ヌレハサハナクテ千鳥ノ滝ニ以ソ満ル

一 陣ノ座

禁裏東ノ建春門ハ左衛門ノ陣西ノ宜秋門ハ

右衛門ノ陣ト云シ又御即位或ハ節會等ノ御義  
式ニ席ヲ構エテ其日ノ事ヲ主<sup>ツキル</sup>大臣ノ居取ヲ  
陣ノ座ト云シ

一 利

一 リ番ノ句

ケリナリタリトカハリテハ二句者

同シ番メハ三句去ヘシル番ヲモ准レ之ニ

一 奴

一 スキテ

衣類ヨリ抜出シタル綿シ依テ綿ニ面ヲ

嫌フ或ハ七句去ナトモセリサレトモ綿ノ花ナトモ云  
句ハカニヒナシ畑ニ有ル植物シ三句去ハ猶可シ

一 盗人緑林

白波

須利

皆夜分勿論シ

緑林



漢書 劉玄カ傳ニエタリ 白波ハ同書ニ黃巾、  
賊起<sup>ル</sup>ニ西河ノ白波谷ニ是ヲ白波ノ賊ト云リ  
須利トハ盗人ノ梵語トソ

一布ニ フトヨミサヨミ有リ トモニ粗布<sup>アラサ</sup>シ 太<sup>フ</sup>給<sup>ヨミ</sup>ハ細<sup>サヨミ</sup>給<sup>ヨミ</sup>  
對スルノ名ニシテ粗布尤<sup>シ</sup>以<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>云ハ細給<sup>ハ</sup>上  
布ノ稱ナルヘキ筈<sup>シ</sup>シカレニ世俗サイミト稱スルハ  
至ラ粗布<sup>シ</sup>是取チカエ云イ誤<sup>ルト</sup>ニエタリ ヨトイ  
トハ通音<sup>シ</sup>畿内江東邊職婦ノ詞ニ布ヲ織<sup>リ</sup>  
ハジムル時<sup>タテ</sup>經<sup>ノ</sup>糸<sup>ヲ</sup>箴<sup>ニ</sup>通<sup>ス</sup>ニヨミヲハツニ入<sup>ル</sup>  
九ツニイルト云フ 按<sup>ニ</sup>此給<sup>ノ</sup>字<sup>シ</sup>

一塗師 人倫塗師屋ト云ハ非<sup>ニ</sup>人倫<sup>ニ</sup>是活法ノ例<sup>シ</sup>

凡テ師ノ字者ノ字匠ノ字ノ付クモノ皆人倫ニシテ  
屋ノ字付ケハ人倫道<sup>ル</sup>ト云定メナレトモ打越<sup>ク</sup>句<sup>ニ</sup>  
繪師トアルニ吳服屋ガ来ラナド云ハ人倫道<sup>ル</sup>キ  
ニアラス餘ハ皆准<sup>ス</sup>之<sup>ニ</sup>捻<sup>シ</sup>テ俳諧事毎<sup>ニ</sup>控<sup>シ</sup>  
待ツハ愚<sup>シ</sup>一理万通ナレハ能<sup>ク</sup>考<sup>カ</sup>自<sup>知</sup>スヘシ

留

一ルランハ 二字假名<sup>シ</sup>三字ガナト心得テ多ク嫌フ  
輩アリ 帰<sup>ル</sup>ラン残<sup>ル</sup>ランルノ字ハ上ノ文字ニ付  
依テ二句去 留ニアラハ三句去ヘシ

一瑠璃鳥<sup>ルリラウ</sup> 活法雜トスル書アリ 非<sup>シ</sup>ルリ頼赤秋



ノワタリ鳥シ

遠

一 女 イロカ一テモ只一ツト書ニ記セリ是應安式ノ趣  
俳諧ニ入用ノ文字シラシチ 女一ツレヨニヨ 女ノ間ニ一ツメ 女一ツ  
以上三ツ其外ニメ山メ松メ 女竹等ノ人倫ニナラヌ女  
ノ字七句去 蕉門ノ活法シ

一 シドロ イバラ 茨棘ノコトシ 然ルニツタニキニ此下ニシダト記

イハラト齒シダ 朶トハ大違ナルモノシ 是體ニホドロノ取違ナル一キカ  
ホドロハ蕨ノ老タルナレハ齒朶ト類同シキモノトモ云ヘシ

一 ツタニ木 是ケチカ 留椽ノ木シ 女エノワタニキ 芋環ニ不可混

機衣 谷フカク立ツツタニ木ハ我ナレヤ思フヲモヒノ 朽テヤミル

一 塘 ラキ 字書ノ註ニ盆中ノ火ツクキト云 煨ラキノ字宜シ

云ニ 畿内西土ノ俗 竈カマドノ火ツ都ラツキト云

和

一 フスレ州 數品アリ 先ツクシサウ 萱州クシサウ フ云又 芦アシ フモ云フシ  
軒ノ忘州ト云ハ尾松シ 是ヲシノフ州トモ訓ス 常  
シノフ州ニ似テ又小シ 古キ軒或ハ北面ノ久キ 尾ニ  
生ス 七月八月ノ頃花アリ 黄シ 甚タ 小ニテ ミエ  
カタシ 是軒ノシノフ一名忘州シ

一 鷲ノ峯 鶴ノ林ハ 山類ニアラス 植物ニアラス 應安



式ノ定シ按シ是他邦ノコトナレハ假カタヒ連俳ノ句ニストモ  
其取ニイタリ其山ニ遊フ句ハ有ヘカラス只俳ノ説  
法ノ地及入涅槃ノ取ト云沙汰ノミシ然レハ山類  
植物トシテ去嫌フニヨシナレト云趣意シルテ古法  
如是ノ了簡ノ以テ究メタルコト往ニアリ

一 和田ノ原 大洋ノ搦名シ或ハワタノミトモ云リ又和田ノ  
三崎 和田ノ入江ナト云ハ横列ノ名取ニワタノ原  
ヤソ嶋カケテト詠ルナト名取ノ哥ニアラス只行衛  
モシラ又海ニ夕、ヨヒ出ルト云意シアソシニ八十嶋モ名取シ  
イハ出羽ノ国ニアレトモ此哥ハ只嶋ノ多キシ  
云レハ八重ノ汐路ト云ニ同シ古今集此哥ノコト書

小野ノ篁隱岐国ニ流サレケル時船ニ乘リテ出立  
トテ京ナル人ノモトヘヨミテ遣ハシケルト云ニ

一 ワキモコ 吾妹子シ 毒ニ面嫌フ 人丸

万葉 ワキモコカ子ノタレ髪ヲ猿沢ノ池ノ玉藻トミルソ悲シキ

一 若葉トハカリハ木ノ若葉シ 竹ノ若葉ハ其竹ヲ云シ

加

一 鐘 應安式ノ法ハ夜分シ然レトモ俳諧ニハ鐘トハカリ  
ハ夜分トセス全躰夜分ト聞ル句ハ論ニ不及

一 喝食カウシキ 釈教人倫シ又船ノ食物ヲ製スル者ヲ俗



カウシキト云 誹諧ニ一、出ツ勿論非<sub>ニ</sub>釈教<sub>ニ</sub>接<sub>ニ</sub>是ハ  
炊人<sub>カシキ</sub>ニテ有<sub>一</sub>キ名ナルヲ訛リ云習ハシタルナル<sub>一</sub>シ俳諧  
ニハ世語ノ一、用ユルモ可シ

一 鴈<sub>カリ</sub> 春秋ニ一ツ宛ガント春秋ノ内ニ一ツ淺ル鴈又  
復鴈ノ内ニ一ツ以上四ツシ春秋カハリテモガント  
二取ハナシ初鴈<sub>カリ</sub>又只鴈<sub>カリ</sub>ト二取ハスヘシ活法ノ  
書<sub>一</sub>、此アヤ分チカタシ依テ蕉門ノ定ヲ記ス

一 垣<sub>ハ</sub> 居取ノ用シ依テ居取ニ二句去シ然トモ垣ニヨルシ  
苗代田畑等ノ垣ハ居取去嫌ナシ然ルヲ活法ノ書  
苗代田畑等ノ垣居取ニ二句去ト念入テ記シケリ

是古書ノ誤ヲ傳エテ師説ニ疎キ故ニ如此道理ナキ  
指合ガイテクルシ居取ト云ハ家宅藏<sub>ニ</sub>部屋ニ  
階等シソレニ田畑苗代ノ垣何ヲ以テ去嫌フヘキ  
思慮アル俳士能ク考エ可<sub>レ</sub>辨<sub>レ</sub>但垣ノ文字ニカ、  
ハリテ道理ヲ外ニスル去嫌ナラハ蕉門ノ論ニアラス

一 鳧<sub>カモガ子</sub>鐘<sub>タイ</sub> 磬<sub>タイ</sub>シウチナラント訓ス昔鳧氏ノ人作り始メ  
タルニヨツテ名トストソ今ノ世鉦<sub>シヤウゴ</sub>鼓<sub>ゴ</sub>フセカ子ノ類ヲ  
鳧鐘ト云シ尤<sub>ニ</sub>釈教

一 霞ノ谷 城別深州ノ北ニ有活法ノ書ニムサトセヌ事ト  
云ルハ八雲御抄ニ霞ノ谷山城奥別同名アリ但<sub>ニ</sub>山城



ノ霞ノ谷ハ悼ルコト有ト云ニ古今集ニ深州ノ帝ノ御国忌ニ

文屋康秀

中深キ霞ノ谷ニ影カクシ照日ノクレシ今日ニヤハアラヌ

カヤウノ哥モ有ヲ以テ悼ルコト有ト遊ハセシナラン

奥列ノ霞ノ谷

深頼父

積香山霞ノ谷ニ深ケレハ我物思ヒハ暗ル夜モナシ

一カケヒニ懸ノ字ニ句去正字寛シ凡テ正字アルモノ

其詞ハカリハ皆ニ句去活法ノ例シシカレソレニ差別習ヒアリク文字ノ下ニ委リ記ス

一カイヤ翁奥ノ紀行ニ

這出ヨカイヤカ下ノ墓ノ聲

此カイヤト云モノ蝥飼<sup>カイコ</sup>屋<sup>カ</sup>ニ万葉集及六百

番ノ哥合等ニ哥アリ捻<sup>ネ</sup>レテ蝥飼<sup>カイコ</sup>スルアタリニハ

其蝥<sup>カイコ</sup>シ喰<sup>ク</sup>ントテ蝦<sup>ガ</sup>蟄<sup>マ</sup>多クシタヒ集ルトソ一カ葉ノ

哥モソノ事ヲ讀リ依テ翁奥紀行ノ時蝥飼<sup>カイコ</sup>

カリ屋ヲミテ此吟アリ句ハ春句ニ紀行ハ初

夏シ未タ蝥飼<sup>カイコ</sup>ノ最中シ凡テ眼前ニ其事ヲ見

スル句ニハサレテ季ノ遠慮ナレ紀行ノ例ニ

朝霞<sup>カイ</sup>カイヤカ下ニ鳴蛙忍ヒツアリト告<sup>ツ</sup>ンコモカモ

又万葉ニ令一義鹿火<sup>カイヤ</sup>屋ト云アリ是秋田ノ鹿ヲ守

為ニカリ屋ヲ作り火ヲ燒<sup>キ</sup>居<sup>ル</sup>取<sup>リ</sup>ヲカイヤト云是ヲ

六百番ノ哥合ニ題寄煙戀



山田モルカイヤカ下ノ煙コソコカレモヤラヌ類<sup>ト</sup>成ケレ  
是秋田ノカイ屋ヲヨメリ翁ノ句ハコレニハアラス  
室ノ句シ凡テ古翁ノ吟如<sup>キ</sup>此深キ寄セアルコト多シ  
只ナミクノコトニハアラスト思ヒレラルハシ

一カシ鳥 秋ト云イ雜ト云 秋ノワタリ鳥ニアラサレハ

雜ノ説宜シトソ 鶯ノ字俗字シ 檀鳥<sup>カシ</sup>シ正字ナシ

哥ニハ其ニモヨメリ

夫本集 雙亭<sup>ツツ</sup>ヒクウナカミ山ノ椎柴ニカシ鳥鳴ツタアサリシテ

一カシハテ 神祇<sup>カレワテ</sup>柏掌有リ又禁裏ノ御膳<sup>ツツ</sup>ヲ主官<sup>ツツ</sup>ヲ

カレワテ<sup>ツツ</sup>司ト云則主膳正ト書目シツタニキニ膳部ノコトシ

ト記セルハ是シ

一カヤフキ 御傘ニ是秋ニモ植物ニモ成マシキ道理ナレ

トモ季ノ詞大切ナレハ名仲ノ分カリテモ秋ニスヘシ秋ナレハ

植物ニモ二句ハ去ヘント云ニ凡テ御傘編集ノ時事甚

無數ニヨツテ如此ノ了簡多シ屋根ニ莖<sup>キ</sup>テ何シ十

年ニモナルモノ秋季植物ニハ用ヒカタシ外物ニ准<sup>メ</sup>

却テ不<sup>レ</sup>宜式ニトソサアレハ櫻ノ盤<sup>バン</sup>躑<sup>ツツ</sup>躑<sup>ツツ</sup>ノ筒<sup>トウ</sup>モ

春季植物トシ 鮭<sup>サケ</sup>鯉ノ類ノ 鮓<sup>ユキ</sup>モ季ニ用ヒ生類ニ

二句去トセ子ハ不都合シ世俳ハ免モアレ蕉門ノ徒ハ不用<sup>ラ</sup>之

一カツチルト云詞ハ ツイ散シ又サシチル意シ猶モノ字



ノ取紅葉ノ下ニ委記ス  
新古今  
下紅葉カツ散山ノ夕時雨濡テヤヒトリ鹿ノ鳴ラン

一 カケロフ 陽炎カケロフモユル只カケロフ共ニ春カケロフ又  
蜻蛉蜻蜒カケロフト訓ス是トシボウノチラノト手  
ニモ取レヌ形チヲ陽炎ニ喻エタル名ニ春ノカケロフニ  
蜻蛉蜻蜒ノ字不可用 トシボウ秋ニ名取カケロフ  
ノ小野 蜻蛉ト書ラモ無季ニ秋津野モ秋ニアラス  
大和ノ名取ニ  
新續古今  
雲カニル夕日ノ空ニカケロフノ小野ノ浅茅生風ノ涼

一 亀井 撰列天王寺ニアリ 名水ニ

後拾遺  
万ッ代ヲスメル亀井ノ水ヤサハ富ノ小川ノ流ナルラン

一 霞ノ關 武藏ニ江戶ニアリ 俗霞カ關ト云  
新後拾遺  
イタツラニ名ツノミトメテ東路ノ霞ノ關モ春ノ暮云

一 竈山 カニト 美濃 筑前ニ同名アリ  
夫木  
美濃ノ国カニトノ山ニ日クルハ烟タエセヌ歎キヲソスル  
六帖  
都ヨリ西ニアリテフ竈山烟タエセヌ戀モスルカナ

一 カタツナニ カタニモ無キニモ三句去 御傘ノ趣赤人  
和哥ノ浦ニ沙ニチ来レハ浮ヲナニ芦边ヲサシテ田鶴鳴渡  
此哥トクト心得ヌ輩 和哥ノ浦ニハ男波ハカリ打チテ



女波ナシ依テ片男浪トヨメリト云リ予和哥ノ浦一  
見セシ時モ案内セシ者片男波ノ磯正ク此取ト  
教エテ奇トス甚愚俗ノ去取之此哥ノ趣意ハ沙ガ  
ミチ来ヌルホトニ于浮カ無クナルニヨツテ芦辺ノカタヲ  
サシテ田鶴ガ鳴行クトシ浮ヲナミノシノ字ハ休メ字ニ  
御傘ニハ鶴ノ行カタナキト云カケタルト註セリ何レニ  
シテモ波ノコトニハアラス無キノ字ヲナミトヨメル

一カサ子字 俗ニヲクリ字ト云シ付テハ不苦送リ字トク打越ノ嫌シ  
送リ字ノ勾ニシクリ字ノ勾ヲ付ルモ一折ニ一取ツハスヘシ多クハセス

一カイマミ 垣間見ノ字ニ依テ居取躰ノ勾ニハ打越ヲ嫌シ

一カハルミタ 堂ノ破風ニアル蔓股ノ木ト云モノニ

一カイゲ 飯匙イ、ガイシ俗ニ云杓子シ伊勢物語ニ手ツカラ  
飯匙トリテ家子ケゴノ器ニモルヲ見テト云ニ

一寒山拾得 非人倫トス問フ此両子ハ佛隱者ニ捨  
シテ僧ノ名サヘ凡僧ノ分ハ人倫トス寒山拾得ハ  
俗髪トミユ人倫トセサルモノ如何ン答フ傳燈録ト云  
書ニ寒山拾得普賢文珠ノ應身ト記ス凡一人ニ  
アラス大悟ノ佛子シ非人倫トシテ不足ナキシ如此  
ノ意ニテ非人倫ト究メタルナラン



一 篋カケ 角カドヲル形カタノ籠カゴシ 戀ノ形見ト云モ此篋ヨリ  
ツコレリト云事本據有ルコトト云ニ日本紀ニ應神  
天皇五世ノ孫男大迹王人皇北七代纏躰天皇ト申  
是ニ俄ニ御位ニ即玉ツギヒ越前ノ国安治麻野ト云取  
ヨリ大和ノ国玉穗ノ宮ニ移リ玉フ時其妾ニ花篋ヲ  
残シ與玉フヨリ戀シキ人ノトメオク物ヲカタミト  
名ツケヌルト花ガタミヲ謡ニモ作レリ

一 カソイロ 父母ヲ云シ日本紀

一 カタガハ 凡ソ公家堂上ノ人ノ他行シ玉フニハ其日  
依テ方角ノ善惡ヲ改ルコト甚嚴ニス然ルニ行ヘキ事ノ

方角惡シケレハ先ツ方ノ善方エ出テソレヨリ用取エ  
趣キ玉フ是ヲ御方違ト云シ日ニ有ル事ナル故ニ  
常語トナリテ御他出ヲ凡テ方タガエト云シ  
源氏物語ニアマタ取出タル詞シ

一 カリソメ アカラサメ イサメ 此三言同意ノ詞シ其  
中アカラサメト云ハ二義アリ物ヲツ、ニズ隱サヌ  
辞ヲアカラサメト云フ則白地ト書クシ又只斬  
書キテアカラサメト訓スルアリ是カリソメト同意シ  
長明方丈記ニ大カタ此取ニ住ソメシ時ハアカラサメト  
思ヒレカ今ニテ五トセテ經タリト云是カリソメト思ヒレガ  
云意シ イサメト云詞尤カリソメ同意シ



草物ノ多ク哥

イサハメニ時ニツ間ニソヒハハス心バセヲハ人ニミエツ

此哥物ノ名一首ニ四ツアリ 笹松 枇杷 芭蕉葉

与

蓬團子 ヨモキタンゴ 御傘ニモ雜トス 蕉門春シ 竹餅

竹團子ノ類 皆春シ

一夜寒ノ里 尾張ノ名取

埃川百首 袖カハス人モナキ身ヲイカセン 夜寒ノ里ニ嵐吹シ

ヨミガ ヤミダ 暗路ノ通音シ 眞達シ又万葉黄泉ヨミナト訓ス

淀船 ヲタキニ旅シ 非水边ニト記セリ 勿論旅シ水边

イカ、レテ斯 カク ハ書タカエタルヤ一取ナラス 非水边ニト記セリ

太

タナツモノ 穀稷 コクシヨク 二字トモニタナツモノト訓ス 五穀ノ

種シ 春苗代ニフロス 穀種ノアミリヲ民家ノ言ニ

タナツミト云 是稷ノ畧シ ヤキ米トス

竹ノ宮 伊勢ノ齋宮ノ御コトシ 此神宮始 タケ 多氣郡

アリ 故ニタケノ宮シ 後竹ノ字ニ易フ又タケノ都トモ云リ

齋王ノイニセル取ナハ都トモ云シ 桑野ノ宮ノ別ノ下ニ記

タノムノカリ 田面ノ鴈又憑ノ将ニ説シ

伊勢物語 三吉野ノタノムノカリモヒタフルニ君ガ方ニソヨルト鳴クナ

伊勢物語

七



竹植

一竹植

其心 翁其ノ發句ニ

降ラストモ休ウユル日ハ簑ト笠

一手向州

非植物ニトス 是神佛ニ物ヲ手向ラズ又

一際ニモ云カタシ 董ノ異名手向州一夜草トモ云フ

花サカハコレヲ宮居ニ手向草一夜ノウチニ二葉ニソカ

一田蓑嶋

撰列ノ名取シ

貫之

古今 雨ニヨリタミノ嶋ヲ今日行ケト名ニ隠レヌモノソ有ク

一タレコメテト云ハ

綿帳ヲサゲル帳ナトヲ立廻ル篋リ居ル

古今 タレコメテ春ノ行エモ知又間ニ待チ櫻モウツロヒニケリ

一大黒

神祇ナレトモ面八句ニモスルト云リ是御傘ニ

惠美須ハ福神ナレハ面八句ニモ苦シカルニシト記セルヨリ

活法ノ書ニ皆是御傘ハ俳諧初式ナレハ事甚

些何ナリトモカ、リアヒニ免レテ俳諧ノコト多キヲ

ヨシトセリ既ニ古今集ノ三鳥マテ春秋ノ部ニ出シテ

不苦セヨト云ニテ可知凡テ面八句ニ神祇叙教戀

等ヲセヌ趣意ヲトクト相傳セサルエニ異説ニ迷

ヘル他門ハ兔モアレ蕉門ノ徒ハ大黒惠美須

面ニ決シテスヘカラス

曾

一僧ノ字ハ非人倫

僧ノ名ヲ云時ハ古今トモニ凡僧ノ

名ハ皆人倫シ一宗ノ開山或ハ国師号大師号有



僧ノ名ハ非人倫

一ソボツ 漆<sup>ソボツ</sup>ノ字シ 微<sup>ツボ</sup>濡シ 千律師板敷山ニテ

幾度カ山路ノ露ニソボチテ袖ノユカリノ州モナツカシ

一袖ノ霜 ヲタミキ九月ノ取ニ出シタリ此秋季心得カヌシ

按ニ袖ノ露ノ書誤カ但シ上ニ衣打ト出シタレハ衣打袖

霜ト云イツケテ秋季ト云フコトカ 露<sup>ツユ</sup>霜<sup>シモ</sup>ハ秋シ

津

一过カ花

赤キ帷子<sup>カタヒラ</sup>シツ、ジカ花ノ畧語シトソ然レ

トモ帷子ノ名ニ成タレハ植物ニハカミヒナシ<sup>アカキ</sup>紅色ノ

物ニハ三句去ヘレ

一月ニサミダレトハ付テ不苦<sup>サツキアム</sup>五月雨ト云時ハ月次ニ准

ヘレシカシ雨一通リノ句ナラハ二句去ニテモ可シ

一罪科<sup>ツミトカ</sup>トツ、キテハ釈教ノ詞シ一字ツ、離<sup>レ</sup>テハ雜

禰

猫ニ鼠 鷹ニ雉ヲ付ル等カ但シ嫌フ人モ有ト云ヘリ

搥シテ昔ノ俳諧ノ付方ハ皆此類シ<sup>サフライ</sup>士ニカ坊主ニ製

裳ト付タルシ今モ女ニ口紅<sup>ベニ</sup>粉<sup>コ</sup>シハグロト付ル類ヒコレヲ

制スレハ俳諧セバキニ似タリ師ノ氣ノ毒コ、ニ有リト云ニ

奈

一淚ノ露ハ降り物 淚ノ雨ハ降物ニアラスト是兩様也

ニメトヘタルモノナレトモ季ヲ持ツト不<sup>レ</sup>持トノ違シ



新古今

露ハ袖ニ物思フ頃ハサソナク必秋ノ習ナラ子ト

一 涙ノ時雨 降物シ 雨モ時雨モタカフコトハナキ物ナレ

トモ是又季ト無季ノサカイシ

一 涙川 涙ヲ川ニタトエタル向ハ非水辺ニ 名取ハ 勢

別ニアリ水辺シ

後撰 君カ行方ニ有テフ泪川先ツハ袖ニモ流ルヘラナル

一 中戀 媒アリテ中ニテ取ハカラフ戀ト云リ

一 ナコソノ關 コノ字清 奥列ノ名取シ

後撰 立寄ラハ歎フムハカリ近ケト誰カ名コソノ關ヲスエケン

一 ナカ神 須ノ和名抄ニ曰百鬼經ニ天一神和名那加ミ

美天女化現シ亦大白神ト云新撰陰陽書ニ和

名比土夜女久里ト云ニ 大白神トハ 大白星ノ事ヲ云フ

カ大白ハ俗ニ云フ宵ノ明星ニノ一夜ニ周天スト云リ

依テ一夜メグリト云ナラン 又藻塩州ニ曰ク天一神

方伯是フタガリノ神シ 五奈ノ天神カト云ニ 源氏

物語ノ註ニ天一神中神長神兩様シ 道祖神カ

ト云リ中神長神兩様ト云註ハ和名抄ニ那加ミ

美ト云ル中ノ字カ長ノ字カ知レカタキト云義シ 右

三說四說皆相違シテ不決 按ルニ是道家ニ立名

新古今

五十一



神ニ本朝神祇門ニナキ神ニ畢竟天一神ト云ハ  
方伯シ方違ノ神シ曆ニ天一天上ト云日ハ百事忌  
ナシト云ニ然レハ方角ノ悪キ方ヲフタキテ守ル神也  
ニヨツテ道祖神ト云フモ一理シ那加ニ美トハ中ノ字ナ  
ヘシ物毎ヨカラントスル下ニ必悪キコト有善悪ニカタ  
ヨラ子ハ方角ニモ悪キ方ハナキシ中道ノ神ナルヘシトソ

一 ナクサメ州 戀シキ人ノ文及形見等シ云哥ニ多詠リ

一 ナゲノ情 サニテ深ク思ハ子トモ打モ置レス先ツナゲヤリニ  
シテ置ク意シ茂ノ字意シトソ又古今集ニイサ今日ハ  
春ノ山辺ニニシリナン暮ナハナケノ花ノカケカハト讀ルハ

ナゲノ情ノ意トハ違ヒテ無ノ字意シト註ニニエタリ

一 ナテシコ 石竹 二名一物ニ 常實ト云フ 別ノ云時  
野ニ自然トアルシ 瞿麥ト称ス 是上古ヨリ本邦ニ  
在テ大和ナテシコト云モノ是シ又河原瞿麥トモ云シ  
人家ニ植翫フヲ石竹ト云 是唐ナテシコニ元ト唐ヨリ  
將來ノ今實バエニ數種 玕花ヲ出ス 京俗 洛陽花ト  
賞セリ 今ハ河原撫子ニモ色ニアリ 古今集ニ  
ミドリナルヒトツ州トワ春ハミシ秋ハ色ニノ花ニソ有ク  
是ナテシコノ哥シトカヤ ナテシコトハ花ノ色形チ甚タ愛  
スヘキヲ以テ 撫子ヲ 愛スル意ノ名トソ又石竹ト  
云名ハ或ル物語ニ曰昔東国ニ鳥田ノ時主ト云勇士



アリ家ノ後ナル山ニツノ石アリ 彼石石靈アリテ人ヲ  
 惱ス依テ時主件ノ石ヲ射ル則矢立テ其矢抜ケトセ  
 ヌケス日ヲ經テ其矢ニ花咲キ畢シ又其花則ナテ  
 シコシ依テ石竹ノ名有リト云ニ此物語ノ意ヲ 俊頼卿  
 カラ國ニ有リケルコトハイ丹知ラス東ノ奥ニ生フル石竹

一良

ラシ雷ノ句ニナンケント中ニアルハ付句モカニヒナシ雷メハ  
 打越ヲ嫌フナントナントケントケントノ同シ假名ハ  
 三句去ヘシ

一牟

一室ノ八嶋 下野國壬生ノ驛ト飯坂トノ間搥社村ニ在リ  
 木ノ花咲ヤ姫ノ神宮ニ無戸室ニ入テ燒死玉ヒナント  
 云折言ノ御中ニ火ニ出見ノ尊生レサセ玉フ依テム口ノハ  
 嶋ト云リトゾ此取ニ世ニ煙ヲ詠習ハシ侍ル 俊成郷  
 イカニセン室ノ八嶋ニ宿モカナ戀ノ烟ヲ空ニカヘン

一室ノ戸 寺院ノ号シ山林ニ引入ル寺院庵坊ヲ室  
 戸ト云シ依テ天子ノ法ニ入玉ヒテノ御隱居ヲ御室ト  
 云フ宇治ノ御室寺京師ノ御室仁和寺コレシ  
 寺ニ折ヲ嫌フト云 説有リ付テ不苦ト云説有  
 蕉門面ヲ去ル

一ムロノ木 葉ハ枚ニ似テ細ク嫩シ木ニ刺有リ 杜松又  
 松楊ムロト訓ス 順ノ和名抄ニハ檉枚ト記セリ



サカサ

忠

無名ノ煙

何ノ烟トモナク又烟トハカリ出タルハ無常  
煙ナトニナル句有ヘシ然レハ夢想祈禱賀ノ會ニハ  
甚タ忌コトナレハ其心ヲ得ヘシトシ又出火ナトノ躰ニ  
ナラヌヤウニ心得ヘキシ

ムサビ

活法ノ書ニ獸ト記非獸ニ蝙蝠ノ類ニテ  
鷲ノ大サホト成モノ翅尾ニ四足付テ爪アリ山野ノ木  
立テ夜飛行ス鷲ムサビノバツレキト訓ス關東ノ方  
言モ、グハ俗ニ野衾ト云モノ此老タルモノト云不  
思ニ人ノ面ヲ覆フコトアリ故ニ俗怪物ト思ヘリ怪物ニ  
アラストソ木深キ山ニ多クアリ聲アルモノト云、  
春日山夜深キ松ノ梢ヨリアマタ落来ルムサビノ声  
為兼卿

宇治拾遺ニ曰後鳥羽院ノ御時水無瀬殿ニ夜ニ

光リ物アリ其大サ傘カサホトアリテ山ヨリ此御堂ヲサシ  
テ飛来ル侍共面ニコレヲ見頭ノ高名セント心  
懸ク或夜一人ノ侍堂ノ中嶋ニ待レ之ヲ例ノ山ヨリ  
光リテコナタサニ来ルヲ芝ノ上ニ寐ナカラヨウヒイテ  
射ル手コタヘレテ池エ落タリ人ヲ起シサハキテ松燈  
コレヲ見ルニ大キナル鷲ムサビノ年フリテ毛ナトモ元レブ  
トケタルニテソ有ケルト云ミ按ルニ此宇治拾遺ト云元  
元テ奇怪ヲ好ミ記シタル書ナレハ菅笠ホドアラハ  
傘ホド、書ヘキコト必定ナラニカレ

宇

一 宇子渡ス 宇子霞ト云言ハ物ヲ打ツトハ違ヒテ只輕キ



詞之面八句ニニツ有リテモ不苦ト云リ  
捨レテ面八句  
同字ヲ嫌フ趣意ハ其文字ノ輕重ニハヨラス書  
面ノ宜シカラシ為ニカロクテモ同字同言無用シ平  
場ニテハ宗匠ノ了簡次第輕重ヲ量テ可許ス之  
コト勿論シ蕉門如此ノ吟味ツヨシ

一 鷄衣 佐人ノ短衣ツ云シ然トモ鷄ヨリ出ル詞  
ニノ秋季トスルナレハ生類二句去

一 鷄ノ床 ウウヲハ空ヲカケル鳥ニアラス昼モ  
草中ヲ床トシ居ル故ニ諸鳥ノ埒トハ違ヒ  
夜分ニ非ストツ

一 ウブメ 玄中記ニ姑獲鳥ウブメト訓ス産婦死  
後化シ此鳥トナル故ニ胸ノ間ニ兩ノ乳アリ喜ンデ  
人ノ子ヲ取テ為己カ子ト云ニ活法ノ書ニ生類ト  
云ハ是ヲ云ナルヘシ

為  
一 井セキ 水除ケシ依テ此假名ニ昔ヨリ奥ノ井ノ字  
ヲ用ヒ来レリ是古人ノ思ヒ違シトソイセキト云ハ  
蛇竈ト云モノニ石ヲ多ク取入コレヲ大河ノ岸ニ  
積ンテ水ヲ除ルシ依テ石堰ノ略シ然レハイノ假  
名勿論シト云ニ水邊ナレハ井ニハ三句去

一 猪名野 接列ノ名取



後拾遺

有馬山井ナ野筈原風吹ハイテツヨ人ヲ忘レヤハスル

大貳三位

一乃

野守ノ鏡

荒野ニ有ル水ヲ云トソ哥林良材ニ曰昔  
雄畧天皇野ニ狩レ玉フ時御鷹放レテイツケ不知  
失ヌ野守ヲ召テ問イ玉フニ有取ヲ奉教イカニシテ  
サタカニ知レルヤト詔アルニ此野水ニ御鷹ノ影  
ウツリ侍ヘハシカク奏シ上ルニト申ケルヨリ野ニ  
アル水ヲ野守ノ鏡トハ云傳侍ルトナシ  
若鷹ノ野守ノカニ見テシカナ思ヒシモス余取自カラシ

一野サレノ鷹

雜

凡鷹ハ四季ニアツテ皆飼育

狩スル其業ニ付テ季アリ野ニ生立モノハ季ナレ  
野サレト云ハ野ニソタチテ年ヲ經ルヲ云シ

一ノサキノ鷹

春ニ是ハ野ニソタツ鷹ニハアラス鷹

ハ皆隻ノ内毛ヲ易ルニヨツテ窠宿ニコメ置テ  
狩セズ然ルニ稀ニ冬季毛ヲ易ルモノ有テ冬ヨリ  
初春ノ内窠宿シテ仲春ニ早ヤ出シテ狩スルヲノ  
サキノ鷹ト云シ按ルニ野ノ先駈ト云意ナラシカ  
夫木我戀ハ野サキノ鷹ノ初狩ニシテモ瘦スルモ心シケリ

一野モセ

道モセ庭モセ皆狹略シ野モセ年道モ狹ト云義シ

一於

老ニ賀ノ字二句嫌フト云リ是活法撰者ノ思違シ

カク

カク



賀ハ一切ノコトニアリ老齡ノ祝ニハカリ有ニアラス  
付句モ打越モカミヒナシ

一大神祭オラワニツリ 三輪大明神ノ祭ニ此訓ヨミ 日本紀延喜  
式等ノ訓ニ又大神祭オラカミトモ

一起ツキルノ字 夜分ト云説アリ句ニヨルニ既ニ朝起ト云ハ  
朝時分ニ非ニ夜分ニ

父

一クサムラ 州ノ字ニモ村ノ字ニモ二句去シ各カラ 搥レテ正字  
有ルモノ二句去ト云活法ノ例ニ各カラ 正字アレハ  
村時兩枚村等ノ村ノ字 手向州ツモヒ草等ノ

州ノ字ニ二句去トス各カラ 叢ト云ハ草ハカリノコトニアラス  
荊棘篠小笹ノ類ニテ茂ル取ノ搥名ニ依テ州  
ニモ村ニモ二句去シサレハ正字アルモノ何ニテモ皆如此  
ト大ヅカニニ覺エテハ又誤アリ 喻ハ朝アサノ日ニアサヒ  
ハ旭アサヒト云正字アレトモヤハリ朝アサノ日ニ三日月ニミカド 腦ニカキノ  
字有レトモヤハリ三日月ノ正字アリテモ其意違タカフ  
コトナキモノハ定ノ通り去嫌フニ如此コトナキ 微細ナル趣  
意ヲ不辨ノ書物ノニニ去嫌フ宗匠ハナキニハオト 劣レリ云ニ

一ク子ルト云詞 ソムキスルニ古今集ノ序ニ女郎花ノ  
一時ツク子ルト書ケルモ 彼男山ニ女郎花ノ古事ア  
ルヲ含ミテソムキスル意ニ用タルニ



一 位山 クライセ 龜潭国ノ名取

大中臣能宣

拾遺 位ヤニ峯マテツケル杖ナレト今万代ノ坂ノタメナリ

一 朽木 名取ノ時、クツキハ江列ニ立 高嶋ヤクツ木ノ  
杣トヨメリ 高嶋郡シ

一 熊野ニ那智本宮新宮付テ不苦ト云 説有、蕉門  
面ヲ嫌、此三取ヲ熊野三山ト云イ 又三熊野トモ云、  
同意ノコト殊ニシキ去嫌ヒシ

一 柳ノ水 也 西ノ洞院三条下ル取ニ立 昔織田常信信雄  
秘藏シテ茶ニ用ラレタル名水シ 井ノ端ニ柳ヲ植テ

其名ヲ呼リ 則此取常信屋鋪跡シ 又下野ノ国  
芦野ト云取ニアル 彼清水流ル、柳蔭トヨメルヲ  
モ西上人ノ柳ノ水ト云イ 習ハセリ 是ハ句ニ依テ 夏季

一 山賤 ヤマガツ 山類ニアラストスルハ 賤山ガツトテ只  
イヤレキモノ、号シ

一 松嶋 未 御傘ニ曰 松嶋松カ浦等ハ其取ニ松アリ  
トモミエス 只昔ヨリノ名ハカリシ 故ニ非ニ植物ニ松  
ニハ三句去トスト云、是負徳翁ノ松嶋雄嶋ノ塚ニ  
到テ見ラレス 只書籍ノウエニテノ捌ハ 芭蕉翁ノ  
曰クソレ俳諧ハ學文書籍ノウエノコトニアラス

下



世変ニワタリテ切有ルモノ、慥ニ見届聞定ナク  
以テ證トスヘシトソ 松嶋ノ諸嶋自然ニ皆松アリ尤  
山類水辺植物ニ松五句去トスヘシト云ニ 予行テ  
誠ニ之ヲ嶋ノ數カソヘ尽シカタク俗八百八嶋ト云其  
中ニ松ナキ嶋 稀ニシテ 裸嶋ナント云 餘ニ悉松有  
テ無ニ他木ニサレハ古記ニカハラス植物ニ三句松ニハ  
五句去ヘシ

一 籬カ嶋 奥列塩竈ノ入江ノ前ニ在

古今 我セコソ都ニヤリテ塩カマノ籬カ嶋ノマツソ戀シキ

一 枕香ノコガノ渡リ 下総シコカルト云シ枕言ニ枕香ト云シ

万葉 ミクラガノコガノ渡ノカラ楫ノ音高シモチ子ナクユヘニ

一 松カ崎 名取 山城ト江列ト両取ニアリ 山城ハ非水

辺ニ 江列ノ松カ崎ハ水邊ニ  
夫木 波タテル松カ崎ナル芦田鶴ハ千代ヲ重ヌルタメシケリ

一 松風ノ里 尾列ノ名取

名取和哥集 松風ノ里ニムレイルミナ鶴ハ千代ヲ重ヌル心地ヨソスレ

一 前ワタリ 思フ人住メ<sup>イダリ</sup> 邊ヲ事ニヨソヘテ渡リアリクニ

一 ミウノボリ 后宮及女宮ナドノ泰内シ玉フツミウノボリ



ワタ下

玉フト源氏物語ニ取ミエタリ 参上マシシ万葉ニ出

一 ミイス 人倫 賣僧ノ唐音シトソ 噓ウツヲ賣アリク  
僧ヲミイスト云シ

一 **計** ケラシト云 詞 ハルケシ シツケシニ面ヲ嫌フト記セリ

コレ等環ナントノ作者 應安式ヲ見誤ルトミエタリ  
ケラシト云ハケルラシノ略ニメウタガヒノ手ノ葉シ  
ラシランナトニハ二句去ヘシハルケシシツケシナトハ大ニ  
別ノコトシ付句モ打越モカマイナシ

一 ケシト云 假名 ノドケシ スヅケシナドニ字假名ナレトモ  
目ニタツ假名シ依テノトケシト涼ケシト三句去 同シ  
假名ハ面ヲ嫌フヘシトソ

一 **不** 古郷 一座ニツノ物シ 其意皆カハレリ 常ノ取ニテモ  
又ハ都ナトノ跡ニテモ 只昔ノ里ヲ云フ 居古里ト云シ  
奈良及志賀吉野 難波等ヲ云フ 名取ノ古里ト云リ  
又旅ノ古里ト云ハ京田舎ニヨラス 旅エ出テ我國ヲ思フ  
古里シ先ツハ皆懐日シ 懐日ニナラス向ナラハ  
面ニモ不レ苦

一 船岡山 山城ノ名取 今無常取シ  
夫木 秋クレト船岡山ノ篠スニキ 誰ニレノヒテ穂ニ出サラン



一風呂 居取ト云レト是ハ居取ノ用シ眷戸カトナカレ  
寺ニハ二句去村里隣ナントニハ打越モカニヒナシ

一冬ガレ 冬立ツ 冬ノ寒キ氣ヲ云シ春サレ秋サレモ  
同シ夕ガレト云モ只夕ベノ氣色ノ寂シキヲ云シ 万葉  
去者ト書テザレハト讀セタリ然レトモ強テ去ノ字ノ  
意モナキトソ 冬立ツト云モ立冬ノ節ヲ云ニハア  
ス只冬ノ氣色立ツシ 冬立ツヤト云五文字ハ冬ノ氣色  
ナルヤト云意シ

一巴木枯ノ森 驗列ノ名取

後撰コカラシノ森ノ下叶風ハヤミ又ノナケキハ生ヒ漆ニケリ

一戀ノ山 名取ヲ云時ハ出羽シ又思ヒノ積リテ置取ナキヲ云シ  
新勅撰コヒノ山シケキ小菴ノ露ワケテ入ソムルヨリ濡ル、袖カナ

一心ノ松トハ 貞操ニシテ色ノカハラ又心ヲ松ニ喩冬タル詞シ  
心ノ松トハ人心ノ直ヲナルヲ云詞シ

一衣子ノ森 山城ノ名取 頭輔  
續拾遺フリハヘテ音ニ鳴クラス蟬ノ羽ノ夕日モ薄キ衣子ノ森

一衣川 奥列ノ名取  
拾遺タモトヨリ落ル泪ハ陸奥ノ衣川トモ云フヘカリケル



一 苔ノ扉トク

居取し植物ニ打越嫌ハ可し句ニヨリ述懐し

一 此殿 居取し 謠物ナラハ非居取ニ

一 コトシニ 今ノ字不嫌 今年ハ是年トモ書テ一ケ年

ノコトナレハ強テ今ノ心ナシ

一 碁ニ 将碁 七句去 双六ハ嫌フ沙汰ナシト云ニ 師ノ曰碁

将碁トモニ御傘ニモ不出 七句去 後又ノ究メタルモノシ

然レハ雙六モ盤面ノ勝負藝ニノ等類ノモノシサレトモ

碁将碁ニハ藝頭有テ其家ヲ立双六ニハ家ナレサレノ

替リアツテ輕シ碁将碁ニ三句去ヘシトソ

一 替ゴゼ女 古ゼノ称ハ元ト 御前ゴゼシ凡テ本朝ノ俗ゴゼ女ニ御前

ノ字ヲ用元サノニ敬テ称スルニアラスニ御前 尼御

前ノ類シサレハ是替御前ナクテガセシヲタミキ 五舌ノ

字ヲ出ス环シ出取可尋

一 木ノ葉ノ浦 近江シ 木ノ葉ノ澳ツキトモヨメリ 亭環ヲタミキニ

木ノ葉ノ奥ト記セルハ澳ノ字ノ書違ナルヘシ木ノ葉

ノ奥ト云名取ハ雲ニ其外ノ名取志ニ未見之 為尹卿

山風ハヲヨハヌ方ノサ、浪ニ木ノ葉ノ浦ノ名ヲ散スラン

一 木ノ葉ノ里 越中ノ名取

チリニカフ木ノ葉ノ里ヲ立別サハ住吉ト秋モ行ラン

六帖

ナク

三三



下

三三

得

一 衛士ノ焼火 禁庭ノ西衛府ハ禁門ヲ守ル奉行シ上

古ハ是ヲ衛士府ト云イ今ハ衛門府ト云 左衛門ノ督曰佐  
右衛門ノ督曰佐

ナントノ届ス役取ナレハ衛門府ト云シ禁門ノ衛護名

ニ依テ節會等ノ終夜 ヨモスカラ 篝ヲタカセテ警固セラル

コレヲ衛士ノ焼火ト云シ其火焼キハトツト下役ノ者シ

一 エビニ 海ノ字老ノ字一字ツ、離レテハ不嫌ハ

正字 蝦エビシ

一 エビ漆 裝束ノ色シ蒲菖衣ト書テエビソメキヌト

訓セリ 熟シタル蒲菖ノ色ノ漆衣シ

天

一 手洗水 非水边ニ 手水水 打水 茶ノ水 洗足等

凡テクミカカレスル水ハ非水边ニ 橋 舟 鳥魚ノ

水边類ニ且テ去嫌ナシ水ノ字ニハ三句去

一 朝露テドロサダ 活法五月夏菊ノ下ニ出レタリ此名アル

モノ本草其外花史中史ニミエス夏菊朝菊朝

露草ト出レタレハ夏菊ノ属ナルヘシ或説是テウロギ

成ヘト云リテウロギハ州石蚕シ其根ヲ賞シテ春ノ

モノシ此説大キニ不合シ

一 調布テツクリ イニシ 古武藏国ニ織リシ名産ノ布シ

拾遺 玉川ニ晒ステツクリサラクニ昔ノ人ノ戀シキヤナソ



一 癩痢 テンカン クツチカケト訓ス音訓トカハリテモ只一ツ

一 閑伽 アカ 水边 釈教 夜分シ 曉ニ佛エ手向ル水ナレハシ  
是モ桶ナトエ汲タル水ニテ水边ニハナルマシキモノナ  
トモ閑伽ト云ハ水ノ梵語ニテ則水ナレハ遣レガタシ

一 明ノ字 二義アリ 明スミレタル句ハ朝時分ヤカテ  
明ル意ノ句ハ夜分シ 曙ノ字ハホノカニ明カニ  
意ニテ猶夜分シ 明グレト云ハ夜ノ明前ニ  
一旦闇クナルヲ云シ 是ニ夕夜分シ 捻テ此三  
品ニ朝時分夕時分ノ去嫌ヒコニカナル事ニテ 活  
法混雜ス 俳子自得ノ去嫌フヘシ

一 アナカマ 源氏物語ニカシミレキ事ヲアナカマト取  
ミ出タリ アナカマビスシノ下略シ

一 霰地ノ錦 アサシ 霰ノ摸ヲ織タルシ又霰ノフリタル  
地ヲタトヘテ錦ト云フトモ

一 網代 アジロ 冬ニ網代打ハ秋ニ屏風 駕ノアジロハ無季  
蘧篠ノ字シ

一 東遊 神前ニテ奏スルウタヒ物シ 神樂ニ非ス神祇ニ

一 青柳ウタフ 催馬樂ノ詠物シ 詠物ノ名季ヲ持ツ 非植物



一 秋ノ宮 中宮ノ御事シ源氏ニモ秋好中宮アリ

一 淡路嶋山 非水辺山類トハ應安式ノ趣ニメ古人工夫シテ  
究メタルモノシ一國ノ名ナレハ國中ニハ野モ里モアリ  
嶋山トオタツカズ依テ山類水辺カミヒナシト云ニ

一 海士シラ小船初瀬トハ 和哥ノヨミツケシ水辺山類シ  
初瀬ハ山下則河ニテ常ニ小船行カフニ故  
カリツケタルシ又船ノ泊リハツルト云意ニテ  
泊瀬ハツセノ字ヲモ用ユ

一 海士ノタグ繩 大綱ヲ引時撈カ繩シ下略シ

一 天ノ河 名取ヲ云時ハ河内ニアリ又和列吉野ニモ  
有ルヲ俗天ノ河ト云

古今カリクラレセタツメニ宿カシ天ノ河原ニ我ハ来ニケリ業平  
夫木 吉野山花ヤ散ラシ天河雲ノ鼓ヲ洗フ白波 俊成

一 嵐山 山城ノ名取 風ノ烈ハシキ山シ

拾遺 六月ヤ峯ニ雲ヲクアラシ山 芭蕉翁  
向フ人モ合ハアラシノ山風ニ人マツ虫ノ声ソ悲シキ

一 有明山 信別

續古今 カタレキノ夜手ニエテ時雨ツ有明山ニカル白雲



一 <sup>アラニヨシ</sup>青丹吉 奈良ト云枕言ハ此詞ノ謂説多キ中ニ上

古奈良坂ヨリ丹青ノ繪ノ具ヲ多ク出セシヨリカク云リトソ

一 <sup>ウタ</sup>阿ノアクビト云ハ 民家ノ言ハ粉ヲ摺ル磨ノシトリテ

フリザル時斤ミテアゲテフリ安キヤウニスルヲ欠

サセルト云ハ茶磨ナトニモ此詞ヲ用ユ

一 アリト云詞 鞠ノカケ声ハ <sup>ツタミキ</sup>苧環ニ有ノ字三句去

ト云リ是ハ大キナ違ハ鞠ノアリト云詞ハ有ト云コトニハ

アラス是甚秘スルコトナレトモ <sup>ヒル</sup>記サレハ誤不知故

<sup>キス</sup>記之ヲ 鞠ニアリト云声ハ蹴鞠三神ノ内ノ一神

名ハ則 <sup>アリソジン</sup>計案林祖神 此神号ヲ唱ルハ飛鳥井

家ノ真茅ニシテ鞠道相傳セサレハ其微細他ノ者ノ如

コトニアラス飛鳥井ニ樂軒蹴鞠ノ御哥ニ

アリヤトモアリヤツトモヤクシトモ習ナクテハ如何云ハキ

左

一 櫻人 サクラ花ニ執シテ家路ヲ忘ル人ハ又櫻ノ澤山

咲タル取ニ住居シシメタル人ヲモヨメリ又催馬樂ノ詠物

櫻人ト云有リ植物ニ非ス人倫ニモ非ス春季ハ持シ

一 櫻ノ宮 <sup>續古今</sup>伊勢ノ末社又北野ニモ有櫻葉ノ神ト云ハ

神風ニ心安クソニカセツル櫻ノ宮ノ花ノサカリシノ西行

一 櫻ノ戸 山中サクラノ中ニ住スル人ノ門ト云ハ 櫻ノ中



テラテモ山住ノ木深キ栖ヲ春ニカケテハ櫻戸トモヨミナセ  
源氏引哥 足ヒキノ山櫻戸ツミレニ開テミタミ又花ノ色ヲミル哉

一 櫻川 常陸ノ名取

常ヨリモ春辺ニナレハ櫻川浪ノ花コソ間ナクヨスラ

貫之

一 櫻木ノ宮 和列吉野

一 櫻井 和列塔ノ峯ノ麓 櫻井ノ里 驛宿

櫻川百首 見ワタセハ春ノ氣色ニ成ニケリ霞タナ引櫻井ノ里

一 櫻麻 夏ニ 麻數種アル中葉ノ形ヲ櫻ニ似タルヲ

云トソ勢別生ノ浦サクラ麻ノ名取ニ又一説ニ櫻咲  
頃麻ヲ蒔ユエ兀テ麻ノ捻名ニトモ云リ

一 サビト云詞 神サビ 秋サビハ宿ノ字寂ノ字ニ刀ノ

サビハ錯 水ノサビ 鉦ノサビハ濫ノ字ニ

一 サメ 山野ニ生スル草ノ類ニサメノトモ云則蓑

ツクリ 蓑ニ編ムハサメ

山賤ノムスヒテカワク小ニ妻コソ衣ノ開ト雨モ通サ子

一 里ノ海士 阿波ノ国ノ名取

後拾遺 浦風ニナヒキニケリナ里ノ海士ノ燒藻ノ煙心ヨハサニ

實方朝臣



一 竹サ、ラ 胡樂ノ器シトソ僧家ニモ持テルモノカ自然  
居士ト云 説教者サ、ラ櫛シコト謡ニ作レリ釈教  
トスルハ其故ナラン

一 早苗 苗代 非水辺ニ苗ハ水中ニノニ植ルニモアラス  
困穂ト云テ 畑ニモ生立モノシ苗代ハ常水ニアラス  
入レカハカシスルモノユエニ水辺ニセスト云、

一 佐保姫ノ衣 衣ニ意ナシ姫ト云ニテ衣ト漆タレモノ

一 雙林寺 洛東丸山ノ隣ニ在国阿上人中興シ平判  
官康頼入道ノ塔西行頓阿ノ塔アリ 近來芭  
蕉翁ノ塔支考建之

一 浪ヤ大津ノ宮 是天智帝ノ都シ云ルシサ、浪トハ  
近江ノ湖ニ限リテヨムシトソサ、ラ波トハ何国ニモ  
ヨメリト云、或哥合ニ

難波カタサ、ナミ寄ル浦風ニ照ル水無月モ涼シカリケリ  
頭輔卿判ニ曰近江湖ナラテ漣ヨムコト凡テ例ナシト云、

一 サ、枕 旅シ 小笹ヲサ、シノサ、 篠笹シノサ、 シ枕トスル旅シ然ルヲヲタニキ 苧環ニ  
一ト取ニハ旅ト記シ又一取ニハ非旅ニト記ス非シ

一 霜臺サウタイ 彈正ノ唐名ニ 御史臺キヨレ トモ云 職原抄ニ曰



彈正臺 ツカサヒルキウタン 掌 ニ 紉 彈ノ事ヲ 近代其職 移 ウレ 檢非違 使ノ廳 チヤウニ ト云ニ

一 酒ノ去嫌 書ニ混雜ス 蕉門ノ定 酒一ツシテ

一ツ但シ新酒古酒トハ 酒出タルウエニテハス一カラス 忍冬酒保命酒ノ類ノシユノ字ハ可為 下戸上戸 醉醒ルノウワサニ一ツ樽 盃 吸筒等ノ 酒器ニ一ツ以上 四ツニ九ツ四ノモノハ折ニ一宛スル法ナレトモ是ハ躰ト用トナレハ五句去ラスヘシ

一 肴ノ字 肴 カウカイ 核トツ、キテ魚ノコトニアラサレトモ

世俗魚肉ヲ以テ肴ト唱へ又生魚ヲモ肴ト云レハ 肴ト魚トハ句ニヨツテ二句嫌フヘシ 寺ノ肴ナシトハ 酢茗荷 座禪豆ノ類ナルニ 鯛 鱸 鰯 等ノ名 目嫌フト有ヘカラス 能ク其ヲ 可見定ムシ

一 サゲシムト云詞 ヲトシムニ折ヲ嫌フトス 是大キナルヨリ簡

違ニサゲシムト云ハ人ヲ陷 ヲトシタ ヲトニハアラス 本語 準 スミ ヲリ出タル詞ニ 工 コウジシ 人ノ以 ヒキツボク 繩墨ヲ物ノユカニシ 見 ミ ニ據 ヨル 語ニ善悪ヲ察シ見 ミ シヲトシムトハ別ノコトシ只シムト云假名ハカリノ去嫌ナレハ二句去シ

一 三昧 サンマイ 畿内江東ノ俗 茶毗 ダビシヨ 取 ト シサニニイト云イ習

セリ其故アルコトカ 依テ是ヲ無常トス 三昧ハ釈



教ノ詞ニ念佛三昧法華三昧皆教ノ句ニ  
依テ可ニ去嫌フ

幾

一 昨日ノ鐘 入相ニ折ヲ嫌フキノフノ鐘ケフノ鐘共  
晚鐘ノコトシト應安式ニモミエタリ

一 キヌク 曉起キワカルニ己ガトリノ衣裳ヲ  
取着ル意ヨリ戀ノ別ヲ衣ノ名付タルシ  
ソレヲ摸ニシテ花ノキヌク旅ノ衣ノトモ別ノ  
コトヲ皆云シモトハ衣類ノウエヨリ出タレトモ  
今起キ別ノ事ニ治定シタル詞ナレハ衣類カニヒ  
ナシ但衣ノ字ニハ二句去

一 狹川 山城ノ名取シ是ハ狹ノ字ニテアラサルヨシ  
御傘ニモ記サレタレトモ狹ノ字ニ古哥ニモ狹ノ

字意ニヨメリ  
トニカクニ人ノ心ノ狹川カケ頭レン時ヲコソニテ  
為家卿

一 北祭 加茂臨時ノ祭ヲ云十一月ニ 南祭ハ八  
幡ノ臨時ノ祭ヲ云ニ三月ニ

一 菊ノ淵 出取イクラモアリ先哥ノ詞ニ  
古今 我宿ノ菊ノ白露ケフ毎ニ幾世ツモリテ淵ト云ラン

一 菊ノカサシ 菊環カ文字ノ取ニ元日ヨリ五日迄ト記ス



是年中行事公事根源ニモ不載普ク書ニシテ  
僉議シ人ニ尋ヌルニ不知恐ク書違ナラント思ヒ  
タルニ藻塩草ニ菊ノカサシ元日ヨリ五日ニテ此  
菊ハ糸ニテ作ルシ是禁中ノ儀シト云ニ然レハ  
ナキ事ニアラス古代ヨリ有ルコト、三エタリ公事  
根源等ノ書ニ不載イラカレク不審コソ

① 由  
一 夕<sup>ユウ</sup>ベノ字 活法ノ品不分夕夕ベト云句一座ニ三ツ  
又夕<sup>ユウ</sup>ト四ツセキト一ツ以上ハツシ同シ言ハ七句  
去或ハ面ツカユヘシ

一 夕端山 夕端川 暮カ、ル時候ノ山及川シ端ノ  
字ニ意ナシ但肥後国ニ夕端川ト云名取モ有シ

一 夕立 白雨ノ字ヲ用ユ事近頃森由己法橋ト云  
連哥師山谷カ詩ニ出タリトテ始テ書リト御傘ニ  
三エタリ 白雨ト書テモユウダチト唱フル時ハ夕<sup>ユウ</sup>ノ  
字ニ三句立ノ字ニ二句去シ然レハ此文字ヲ書目テモ  
何ノ詮ナシ摠シテ珍敷文字ヲ懷紙短冊ニ書ヌ  
コトシトソ中ノ院入道殿仰セラレテ曰哥道ヲ  
知ラヌ人メツラシキ文字ヲ書メカルシ古人ノ  
書レシ哥書ナトヲ見候ヘホト、キスナントモ  
郭公ノ文字ヨリ外ニ古人ハツカハヌシト  
云ニ



一 ヲウツヅ 長庚星 則 ヲウツヅト訓ス 俗ニ云宵  
明星シ 曉ノ明星ヲ 啓明ト云フ 同星シトソ  
大自金星ノ名アリ シタニキニ ヲウツヅラ 辰星ト云  
星ノ名ニト云フ 皆チカヒトニエタリ

一 木綿附鶏 ユフツケトリ 神廟ニ放ツ 雞ニ白木綿ヲ付テ放ル  
故ニユフツケ鳥ト云 始メタルシ 今世只雞ノコトニ  
成テ 哥ニモ常ノコトニ 詠侍レハ 神祇ノ意  
ナレ 夜分生類ノミ

一 雲ノ山 二義アリ 山ニ雲ノツモリタルヲ云 句ハ山類  
ニテ 築キタル山ハ非 山類ニ

一 雲山 天竺ニ 前ニ鷲ノ峯ノ下ニ云 加クシラ又 国ノ  
コトナルヲ以テ 山類トセス

一 ヲカシキニ 戀シキ 付句 打越ヲ嫌フ 一字假名ナレト  
モ耳ニタツ 假名ニ 敷ノ字ニハアラス

一 ヲグ 浴ノ具ト云 略シ 畿内 江東ノ俗 女ノ下帯ヲ  
ユグト云 元ト女ハ下袴ヲ着ル 著シ 今モ上ツカカ  
常ニ下袴ヲ着シ 玉ヲ然レハ 今賤女ノ用ル 脚布  
ハ上ツカカノ 浴ノ具ナルコト 掲焉シ

一 ヲフタニ 神祇 白木綿 シラユフ ヲ疊重ル 意ニヤ



ワク下

六百番 木綿夕三手向ノ山ノ櫻花ヌサモ取アエス春風フ吹

一(女)

名神非名取ニト云コト 活法ノ書ニ伊勢ヲ天照太神  
北野ヲ天滿神ト云ハ非名取ニト記セリソレハ云  
ニモ及ハヌ事ニ應安式ニ名神非名取ニト云趣  
意ハ伊勢ノ神北野ノ神春日大明神住吉  
大明神トシテ非名取ニ只神ノ御名ニ故ハ  
何国エ勸請シテモ其名アリ名取ニハアラスト  
云美シ連哥等ニモ此コト昔ヨリ色ニ論有  
皆應安式ノ見様悪キ故ニ惑ニ説出クルニト  
云ニ但シ伊勢ノ神垣春日ノ宮居ト其取ニ至  
タル眼前ノ句ハ名取勿論ニ

一名木散

九月ノ部ニ出テ尤秋ニ是海棠桃李  
ナトノ秋ニ至テ落葉スル類ノコトシ然ルヲ名ノ木  
散ナト、句ニシタルニ、アリ連哥師ニ聞クニ知ヌコト  
ニト云リ俳諧ノ巧言ト三エタリハツシタル言ニ

一目サシ州

古草紙ノコトニト云リ又茶ノ異名目  
サシ草ト云然ル時ハ句ニヨツテ植物

一(美)

一 簑虫 鳴ハ秋其名ハカリハ雜ト云リ蕉門鳴ト  
コトハルニ不及 簑虫トハカリモ秋ニ

一 簑ニ雨

二句去打越ト云ルハ非ニハ打越ヲ嫌フ



云モノハ付テ不<sub>レ</sub>苦 箕<sub>ニ</sub>雨ハ付ケヌ法<sub>シ</sub>

一 三字假名ト云コト 色<sub>ニ</sub>ノ説アリカ<sub>ハ</sub>ルトノ<sub>ク</sub>スク<sub>ト</sub>ノ<sub>ク</sub>  
類<sub>シ</sub>ト云又一説 秋ハナヲ春ハ只ナト云コト<sub>シ</sub>ト云リ  
件ノ説トモ先師 不<sub>レ</sub>得心ト<sub>シ</sub>エタリ上<sub>ニ</sub>ノ三字<sub>ニ</sub>ナ  
手<sub>ル</sub>葉ノ假名ニア<sub>ラ</sub>ス三字假名ト云カタシ 按<sub>ル</sub>ニ  
三字假名ト云ハモガナハ、ヤ<sub>レ</sub>ドモケレハナトノ  
三字假名ノコトナルヘ<sub>シ</sub>何<sub>レ</sub>モ同<sub>シ</sub>假名ハ五句七  
句嫌フモガナニ<sub>レ</sub>ドモトカハリテハ付句モカ<sub>ニ</sub>ヒナシ

一 御<sub>ミ</sub>枝<sub>エ</sub>ニハラフ付テ不<sub>レ</sub>苦ト云ハ拂ノ字ノコト<sub>シ</sub>  
不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>温<sub>ス</sub>

一 ミトリ子<sub>ニ</sub> 緑<sub>ノ</sub>字不<sub>レ</sub>嫌ト云ハミトリ子ハ嬰兒<sub>シ</sub>碧  
ノ字ノ意<sub>シ</sub>トツアツタミト訓<sub>ス</sub>

一 ミサ山 此祭<sub>ニ</sub>以<sub>シ</sub>芒<sub>ヲ</sub>ミクサト称<sub>レ</sub>テ祠<sub>ヲ</sub>造<sub>ル</sub>ト天照  
太神天ノ磐戸ニ篋<sub>リ</sub>玉<sub>ヲ</sub>時<sub>ニ</sub>此神<sub>ノ</sub>草<sub>ノ</sub>祖<sub>ニ</sub>テ採<sub>ル</sub>  
五百箇野ノ<sub>ス</sub>茂<sub>ノ</sub>八十玉<sub>ヲ</sub>籤<sub>ヲ</sub>ト云事 神代卷<sub>ニ</sub>載  
ラレタリ依<sub>テ</sub>此祭<sub>ニ</sub>假殿及幣帛<sub>ニ</sub>モ用<sub>ル</sub>芒<sub>ヲ</sub>  
ト云<sub>ニ</sub>故<sub>ニ</sub>崇<sub>テ</sub>之<sub>ヲ</sub>御<sub>ク</sub>サト申<sub>ス</sub>トツ  
万葉 三<sub>ノ</sub>薦<sub>ヲ</sub>苙<sub>ル</sub>信濃<sub>ノ</sub>ニユ<sub>ニ</sub>我<sub>レ</sub>引<sub>カ</sub>ハ宇真人<sub>サ</sub>ビ<sub>テ</sub>イナトイハシカモ  
註<sub>ニ</sub>三<sub>ノ</sub>薦<sub>ハ</sub>ス<sub>ニ</sub>キ<sub>シ</sub>宇真人<sub>ハ</sub>美<sub>女</sub>ト云<sub>ニ</sub>

一 美<sub>ミ</sub>豆<sub>ヅ</sub>ノ御<sub>ミ</sub>牧<sub>キ</sub> 野馬ヲ取<sub>ル</sub>牧<sub>シ</sub>山城甲斐<sub>ニ</sub>同名有<sub>リ</sub>



ワク下

ヲタミキニ水野御牧ト記ス非シ奥列ミヅノ小嶋ト云  
モ此万葉書キヲ用ユ

一ミヅツクシ 順ノ和名抄ニ漣標ハ水ノ浅深ヲ知札シミヲ

シルシトモ云 漣ハ水筋シ標ハ串シニミヅグシシツ文  
字ハ助語シトソ 貫之土佐日記ニ六日ミヅツクシノ

モトヨリ出テ難波ノ津ヲ来テ川尻ニ入ト云リ袖中  
抄ニ難波津ニ始テ立ニ漣標ヲト云ニ

難波江ノ芹カリ子ノ一夜ユヘミヅツクシテヤ戀渡ルヘキ

一御船山 和列ノ名取シ

三吉野ノ御船ノ山ニ立雲ノ常ニアラント我思ハナクニ

人丸

一宮木引 山ヨリ材木ヲ引出スツ云ニ宮木ハ良材シ

宮室ヲ造ルニ用ユルト云義ヨリ云リ新古今ノ序ニ

伊勢ノ海清キ渚ノ玉ハ拾フトモ盡ルコトナク和

泉ノ杣ノシケキ宮木ハ引トモ絶ユヘカラスト云ニ

昔ハ和泉ノ国ヨリ良材多ク出レトミエタリ

昔ハ和泉ノ国ヨリ良材多ク出レトミエタリ

一木兔 猿蓑集ニ冬季ニミ、ツクノ祭句有

此モノノ季ニ用ユル沙汰ナシ猿蓑ハカリシ

一句ノ趣意ニトラヘ取有テ冬季ニ成シ入レ

タルモノカハ名宗匠ノ其座其句ニヨツテ

捌キハ格ニナラス



之

一 下帯 活法ノ書ニ戀トストク結フナトシテ夜分ニナル句ナラハ句ニ依テ戀ニモ成ヘレ其名ハカリハ非レ戀ニ下紐ト云句ハ大方ハ女ノ方ニワカフ言ナラトクトカヌトセストモ必戀ニ成ヘキシ

一 男ノ下帯七夕ニ手向ト云コトアリ 我カ衣ヲ手向ル事哥ニモヨメリ七夕ニ新衣ヲ手向テ其フロシテ着レハ身堅固ニ心貞操ニナル呪ミコトイトク 又晋ノ阮咸七月七日豎タテ長竿ヲ標ニ太布ノ幘フットレ鼻根ハシ曝ハクニ庭中コト古書ニアリ 是等ノコトツ云フナルヘシ

一 信夫ノ囀 恐措 奥列ノ名取シ又恐ノ囀ハ河内シノ古今集 陸奥ノシノフ文字措誰ユニ乱レソメニシ我ナラナクニ新後撰 待人モナドカタラハテ時鳥コトリ恐ノ囀ニ鳴クシ

一 櫛シキミノ切リ葉 櫛ヲ枝ナカラ手向ルヲ俗ニハナト云シ又葉ハカリヲ土器ニ盛リテ手向ルヲキリ葉切櫛トモ称スヘシ三輪ノ謡ニカクシモ尋子キリ櫛ツミヲ助ケテタビ玉ヘトツケタルモ切櫛ツムト云イカケタルシ又藻塩艸ニ櫛ノ青葉キリウケテトヨメリ是水ニ淳メ手向ル切葉シ切櫛櫛ツム皆釈教シ

一 シバニ 無言ノコトシ 源氏ニ多ク出タル詞シ



一 菖蒲谷 浴西遍照寺ノ奥ニアリ彼三位中将惟盛ノ息六代御前母トモニ隱レ居レ居レ平家物語遍照寺ノ奥小倉山ノ麓菖蒲谷ノ辺リ大覺寺ノ僧坊ニ深ク忍一リト云ニ

一 精進 ヲタニキ 苧環等ニ神祇ト記是取チカトト三ニ御傘ナトニ沙汰チ事シ 神祇ノ取ニ委記ス

一 白鳥ノ鳥羽 枕言シ 定家卿 ヤスラヒニ出ケン方モシラ鳥ノ鳥羽山松子ニニ鳴

一 シンキト云詞ハ 辛氣シ或ハ心氣ヲ打ナトノ事シ

一 賤女 下女桂女 戀ニアラストレ又戀トス蕉門ノ意ハ下女モ下女ニヨリ賤ノ女モ賤ノ女ニヨルニ一旬戀情ノ有無ヲ以テ究ムルニ桂サト云ハ婚禮ノトキ竹撥ヲトツテ姫ノ輿ニ從フ女ヲ名ツクルニ

比 一 直隱 ヒタヤコモリ ヒタスラ家ニ篋リ居ルニ居取ニ二句去

一 廣瀨 竜田 両宮ニ 竜田明神ハ立チ野ト云取廣瀨ノ神宮ハ廣瀨ノ河边トモニ大和国ニ 兩神風ノ難ヲ除テ年穀豊ナラシムル神トソ 日本紀ニ委

一 日吉 江別志賀ノ郡山王七社ノ権現是ニ七社共ニ



大己貴ノ尊オラアチチ此神七名有テ則七社トストソ其七  
名大國主 葦原醜男 大國王 大己貴今山王七社ノ名  
大宮ニテ宮 客人ノ宮 三ノ宮 聖真子八王子十禪師  
又中ノ七社下ノ七社悉名アリテ合テ廿一社トス本是大  
己貴ノ尊ノ鎮座ニ後兩部習合ノ社名廿一トナルト云ニ

一 膝突ヒヤツト 半畳ノ類小丸敷物シ堂上ノ畳ジヤウニ兩脇ニ膝  
モタセ有モノアリソレヲノミ 膝突ト云ニハアラス  
小畳コタマシ 四座ノ類膝突ト云ニ

一 百姓 農民ヲ百姓ト云フハ農民ニハ公家ノ姓モ  
武士ノ姓モ一切ノ氏姓シセイ交リアルナレハ百姓ト云ニ

一 昼ノ字 ニツ 昼イダト音ニヨミテ又一ツ有ヘシ

一 檜杖ヒヅエ 檜笠ヒガサ 釈教トスルハ是僧家ノ具ト云  
コトシ 釈教ニ句去ラハ可シ

一 墓ヒキカヒ 蝦蟇ナマ 昔予浴東頂妙寺ニ招レテ俳諧セ  
シニ伊賀ノ俳士ヒキゴト、云句セリ予其席ノ文臺ヒキカヒ  
在シカハ尋シ之シラ 伊賀ニテハ墓ヒキカヒヲヒキコト、申シ侍ル  
ト云フ 国ノノ方言不可ホ制ス 則懷紙ニ載ス  
此コトヲ江戸ニテ或ル俳子ニ談話カタリケレハ下総ノ  
国ニテハゴトノト云フトイヘリ 扱ハ彼カ鳴ク  
音コシトシラレタリ



タカ下  
異

一 蝸ヒナシ 蟪蛄ケイコ 則ヒグラレト訓スツクくボウレト鳴  
蟬ツクシ 三才圖會ニハ蟪蛄ト蝸ト別シヒクラレハ  
山中ニノミ有テ日ノ没イリニノミ鳴クト云リ又藻塩草  
ニハ秋ニ成テ鳴ク蟬ヲ蝸ト云ヒト云ニ

一 **毛** 紅葉 散初ハ冬 カツ散ハ秋ト云意ハカツチルト云  
未タ散レキ節ナレトモサニ散シ散初ハ其時節  
至リテ散ハムルニ依テ冬

一 求子モトメコ 活法ノ書是ヲ神樂ト心得テ神祇冬夜分  
ト記ス 神樂ニアラス梁塵秘抄ノ神樂ノ部ニ  
求子東遊ト云モノナシ只神前ニテノ謡物ニ然ハ

冬ニアラス夜分ニアラス神祇ノミニ駿河舞ナレト  
云モノ此類ニ

一 虎落モカリ 何レノ書ニモ此二字シ 芭ノ字モカリト亭環テウヱン  
出セリ芭ハマカキシモカリノ訓イブカシ

一 最上川モカミ 出羽国ノ名取シ  
古今モカミ河ノホレハ下ルイナ船ノイナニアラス此月ハカリ

一 望月 二義アリ 十五夜ノ月ト信列ノ名取トシ  
其句意ヲ能ク聞届ケテ去嫌フヘレ名取ノ望月  
ハ野馬ヲ取ル牧ニ望月ノ駒尤秋ニ彼貫之ノ



ウク下

相坂ノ關ノ清水ニ敷ミエテ令ヤヒクラン望月ノ駒  
ト云哥ヲ八月十五夜ノ哥ト心得タル人ミ、アリ大ニ  
非之駒牽ノ下ニ委記ス望月ノ駒ヒキハ八月廿三日  
之此貫之ノ哥則信列望月ノ牧ヨリ禁裏ニ  
献スル駒ヲヨメルノミシ決レテ月ノ哥ニハアラストソ

世

一セコセナトモニ夫ヲ云シ

衣通姫

我セコガ来ヘキ宵シサカニノクモノフルヒ兼テシルシモ  
伊勢物語夜モ明ケハキツニハメナテクダ家難ノミクキニ鳴テセナヲ見

一旋人

センジン

釈教人倫トスアミ子ク僧家ニ尋ルニ此名  
アルモノナシ行堂人ノコトナルヘレトソ行堂ヲ旋

行者トモ旋轍トモイフト云ミ

一山洞霞洞蕨姑射山是天子ノ御隠居ヲ奉

祝シ仙境ニ比シテ名付ルモノニ摠ノ内裏ヲハコ

ヤノ山ト申ス別シテハ山洞ノ御コトヲ云リ是則

仙境ノ名ニ莊子ニモ蕨姑射山ニ神人アリト出タリ

幾千度浦嶋カ子ハ帰トモハコヤノ山ハ常盤ナレシ俊成卿

一仙人山ニハカリ住ムモノニアラサル故ニ非山類ニ又仙

境ハ人間界トハ別ナレハ人倫ニモアラス

寸

一ス、ゴサス 春ニ至テ鷹ヲツカフニ鷹ノ鈴

ウク下



ノ鳴<sup>ナラ</sup>ヌヤウニ鈴ノロエコ子ヲサスシ是鷹匠ノ故實シ

一 杉ノ窓 是強<sup>チカチ</sup>窓ニ限<sup>リ</sup>ニテモナシ只杉檜ナントノ  
茂ル取ノ木深キ住居ヲ云シ然レハ居取シ植物ニ二句  
去シ活法ノ書非<sup>ニ</sup>植物ニトスルモノ不心得

一 住吉ノ神 非<sup>ニ</sup>名取<sup>ニ</sup>名神非<sup>ニ</sup>名取<sup>ニ</sup>ノ取<sup>ニ</sup>委記

一 諏訪祭 雜シ信別諏訪明神ノ祭禮一ケ年ニ  
七十五度アリトソ依テ季トセス

一 スバノレノヤ 篠<sup>スバ</sup>ノ篠<sup>レノ</sup>屋<sup>ヤ</sup>シ重子詞シスバノレノ同物シ

スバノレノ原ナトモヨメリ篠<sup>スバ</sup>ハ小<sup>コ</sup>甚<sup>サ</sup>ノ類シ  
新古今 常ヨリモレノヤ軒ソ埋モル今日ハ都ニ初雪ソル

一 スゴ 人倫 從子<sup>スゴ</sup>シ從者<sup>ズサ</sup>トモ奴僕ノコトヲ云シ

一 菅原ヤ伏見 大和ノ国ノ名取シ菅原ハ則菅家ノ  
御在所シ其引ツキニ伏見ト云里アリ山城ノ伏見ト別シ  
古今 イサ爰ニ我カ世ハナシ菅原ヤ伏見ノ里ノアレマクモヲレ

一 スサブト云詞 風ノ吹アルコトニモ用ヒ又止ム方ニモ  
用ユスサブハ荒<sup>アハ</sup>ノ字シ荒ノ字ヲヨタル意モアレハ  
止ム意ニモ用ユルナレ



篋 纒 輪

卷之六

方竟千梅選

活法之書 神祇 釈教 戀 無常

人倫 居取 夜分 山類 水辺

等之部ニ在ル物抜記

①神

一

カタソギ

日本紀千木ノ偏鍛カタソギ

又形祖木トモカタソギ

木キ勝雄木トモ云

神宮ノ棟ノ飾シ伊勢出雲八

幡フナ捻シテ宗廟ニ限テ有レ之ト云リ然ルニ今取ノ

神宮ニ普ク作レ之ヲ

一

忌サス

忌竹シ

是如茂ノ祭ヨリ始ルトソ依テ何ノ



神社或ハ祭祀アル家又村ノ入口等ニサスモ皆  
夏季トス加茂ノ神事ニハ早ヤ三月尽ニ挿<sup>サス</sup>之ヲ  
カヘル春卯月ノ忌ニサレコメテシヅ<sup>ミ</sup>御生ノ程ニテモミン

一 駒犬

書ニ説多ク或ハ神切皇后三韓退治ノコトニ  
附會シテ高麗犬ナト、書キ又ハ天犬ナトモ云リ  
皆非シトソコマ犬トハ戸前ノ犬ト云々シ犬ハ能ク守リ  
防ク獸ナレハ非常ヲ防カレムル為ニ其形ヲ刻ミテ  
神社ノ戸ノ前ニ立之ヲ依テ其名ヲ呼シトフ紫  
宸殿清涼殿ノ御帳ノ下ニモ有又御即位ノ時  
兼明門ノ前ニモ立之ヲ以<sup>カラ</sup>紫銅<sup>ノ</sup>鑄タル駒犬シテ予  
親見<sup>シ</sup>之ヲ源氏榮花物語等凡帳ノ傍ニモ置<sup>カ</sup>

之ヲコト取ニモタリ皆戸前ノ犬ノ意ニ

一 ヲハラゴ

太神宮ノ神饌ニ奉仕スル小女シ昔ノ齋  
宮ノ如クニアラス齋宮ノ御コトハ九月野ノ宮ノ下ニ委  
記スヲハラゴトハ俗言ニシテ本称ハヲコラゴシ伊勢  
神官ノ内ニ子良物忌ト称スル社家廿七八家有  
其娘ヲ以<sup>ニ</sup>神闈<sup>ヲ</sup>備<sup>フ</sup>之<sup>ニ</sup>其父母共ニ居スル室殿  
ヲ子良ノ館ト云フ是則神樂殿ニ依テヲコラゴハ  
御神樂子ノ訛言シトモ云リ又按<sup>ル</sup>ニ日本紀<sup>ニ</sup>猴<sup>サル</sup>女<sup>メ</sup>  
上祖<sup>ト</sup>天ノ鈿女<sup>メ</sup>ノ命<sup>ミコト</sup>神樂ヲ主<sup>ト</sup>玉<sup>メ</sup>ヲ神<sup>ニ</sup>シ<sup>ル</sup>猴<sup>サ</sup>女<sup>メ</sup>  
云ハ則<sup>チ</sup>猴<sup>サ</sup>良<sup>メ</sup>シ今ノ子良物忌ハ皆其裔シト  
古翁山田ノ吟

古翁山田ノ吟

古翁山田ノ吟



ヲコラゴノ一本<sup>キト</sup>ユカレ梅ノ花

是太神宮ノ宮地ニ梅甚タ稀シ子良ノ館ノ後ニ  
只一モト有リトイハ此吟アリト云ニ又按ルニヲハラ  
子トハ御<sup>ヲハラヘ</sup>祓子ノ略ナラン然レハ俳諧ニハヲハラゴトモ  
スヘレ俗言シトモ世ニ久レク云習イタルコト最可用之ヲシ

一 復神樂川社 是邪氣災難ヲ除<sup>ヨク</sup>為河辺ニ假

社ヲ作テ祓スルニ厄氣ヲ祓フ神祭シ菰枕ハ神  
樂ノ謠物シウタヒ物數多<sup>ル</sup>中菰枕復神樂  
ウタフトニエタリ菅貫六月ノ取ニ委記

一 御贖物<sup>ミアガモノ</sup> 俗ニ願ホドキト称レテ神エサケモノスル

是ニ宿願成就セレヲ悦<sup>アガ</sup>テ贖奉物シ

一 廿八エナス神 神代卷ニ螢火光神<sup>ホタルビカヤク</sup> 蠅聲邪神<sup>サハヘナスアキ</sup>

ト有リ邪神如蠅ノ集ルト云蠅ハ假令<sup>クダハ</sup>シ生類トス  
ヘキニアラサレトモ季ヲ持ツ故ニ生類ト云シ虫類  
打越禽獸ハ不去<sup>ク</sup>嫌

一 神 山中ニアル樹ナレハ其名ハカリハ非<sup>ト</sup>神祇ニ云ルモ

一理ナレトモ俳諧ノ句ニ出<sup>ス</sup>之ヲモク神祇ノ趣意ナ  
ラテ可出ヤウナシ然レハ神トハカリモ神祇ナリ  
延喜式ニ賢木ト書リ神ハ俗字シトソ俗字ナレトモ  
神ノ木ト書是其名ハカリモ神祇ナル證シ

神代卷 延喜式



一ヒモロキ 二義アリ 神饌ヲ云時ハ昨ノ字 又  
日本紀ニ神籬ノ二字ヲヒモロキト讀セタリ是ハ三ツ  
がキシ神ニ饌<sup>イカキ</sup>モノト神ノ瑞籬ト而義ヒモロキシ

一廣前 <sup>ヒロコヘ</sup> 是又二説アリ 神前ノ白砂<sup>シラス</sup>ヲ云或記住  
言ノ神祠ニ詣<sup>ヒコフテ</sup> ヒロコヘニ跪<sup>ヒキツキ</sup>テト云是シ又ヒロコヘト云  
ハ神衣ニシテ子長衣ト云シトモ云リ  
天ノ下ハグム神ノ御衣ナレハユタケニゾタツニツノ廣前

一ナゴシノ被 二義アリ 復越<sup>ナゴシ</sup> 和讎<sup>ナゴシ</sup>シ但二義一意シ  
先ツ四時ノウツリ行相尅<sup>ナゴシ</sup>ツ云時秋ハ金冬ハ水ニテ  
金生水シ冬ノ水ニ春ハ木ニシテ水生木シ春ノ木ニ暴

火ニテ木生火ト皆相生ス然ルニ夏ノ火ニ秋ノ金ハ  
火尅金ニシテ相生セス故ニ夏秋ノ堺ニ至テ天地  
相和セス暴風<sup>ナゴシ</sup> 洪雨起ツテ五穀成熟セス依テ神  
被シテ能ク相和セシメテ夏ヲ越ルヲ夏越ト云シ又  
陰陽和合セサル故ニ惡氣行レテ人民病悩ス依テ其  
厄氣ヲ和讎<sup>ナゴシ</sup>シ被シ凡此水無月被諸社行<sup>ナゴシ</sup>之ヲ  
中ニ<sup>タマス</sup>紮<sup>タマス</sup>ノ社下加茂<sup>タマス</sup>ノ被殊ニ嚴重シ六月十九日始<sup>タマス</sup>テ  
同晦日ニ至ル晦日ヲナコレノ大被ト云シ此神被ノ間ヲ  
紮<sup>タマス</sup>ノ涼ト称シテ浴中ノ貴賤群衆<sup>タマス</sup>河原ノ茶店<sup>タマス</sup>納底  
祇園會ノ河涼ニ又ヤウカハリテ氣色<sup>タマス</sup>濶然シ

一常陸帶 <sup>ヒタチノビ</sup> 麻嶋ノ御神事 正月十日ニ麻嶋大



神宮武甕槌ノ命ニ春日大明神四座ノ一社是也

一イモイ 神道ノ忌詞ニ精進ノ事ヲイモイト云リ則齋齋

齋忌精進ノ字共ニイモイト訓スサレハ精進ト云詞神

道ニ普ク用ルニヤ佛經ニモ無量精進ト説リト云ハレハ

モトヨリ神釈共ニ精進アリト見ユ今佛家ニ魚肉ヲ

斷テ勤メ行フヲ專ラ精進ト云類ニソレ於法無染

精ト云イ念ニ趣ラ求ラ曰進ト云凡處其事無化精

進ト云トナレハ神釈ニ限ルコトニモアラサルヘシ然レハ

蕉門俳諧ニ精進ト云時ハ神釈カヒナシ只イモイ

ト云詞ノ三神祇ト心得ヘシ

一船玉 船ノ神ニ本朝ニ所祭猿田彦ノ命中華ニハ

鴻耳神孟公孟洗トモニ船ノ神ニ又琉球記ニ天妃

菩薩船菟ト云ニ是海神ニ常陸国水戸ノ府

浦中ノ湊ト云取ニ黄門光国卿令祭之ヲ玉ヲ天

妃山大権現ト称ス

一ヨルベノ水 神前ノ甕ニ入レタル水ニヨルヘト云フ名ヤ搃

レテ神ニヨルト云事多ク説宣ト云フモ人ノ口ニヨリテ

神ノ宣ニ神子ヲヨリキト云モ其意トソ此水諸

大社ニ皆有之トイヘトモ只神水ト称スヨルヘノ水ト云名

目ハ加茂ノ社ノ神水ニ限ルコトトカヤ俊成卿定家

卿モ此説ヲ用イ玉ヲ源氏幻ノ卷ニ

サモコフハヨルヘノ水ニ水草井メ今日カサレヨ名サヘ忘ル



是紫ノ上卒シテ後彼家ノ中將ノ君ト云々加茂ノ  
祭ノ日ウタ、寐シ居タニ取ニ葵カツラノ有ラ源氏  
取玉ヒテイカニ此カサレヨ名サヘ忘レニケリトアリシニ  
中將トリアエス讀シ哥シ註ニ此并ヨリ先キヨルヘノ  
水ト云コト古キ哥ニモミエト云ニ此後嘉應ノ頃住吉ノ哥合  
月影ハサエニケラレナ神垣ヤヨルヘノ水ニツラ、井ルニテ  
俊頼卿判ニ曰ヨルヘノ水ト云コト源氏ニサモコソハ  
ヨルヘノ水ニ水竹井メト詠ル外古キ哥ニモミエ侍ラス  
是ハ加茂ノ祭ノ日ヨメルモノヲト有リテサテ此住吉  
社ハ海ノ面氷ヲミカキ濱ノ真砂玉ヲ敷ラシテハ  
打ヲキテヨルヘノ水ニ月ハサエケラシト思ハンコトヤイカ  
ト云ニ此判者モ加茂ニ限ルヲ取申サルトミエタリ

一 庚申待

神祇ニ出セリ是更ニ神道ノ事ニアラス  
唐土ニテ仙道ヲ信スル者ノ云出シタルコトニレテ且テ  
實ナキ事ニ勿論其神ナシト云テ故事要言等  
ノ書ニ委クアリ可見然レトモ本朝ノ俗祭<sup>テ</sup>之日  
待月待ト同クス依テ世俗ノ用ヒ行フニ俳諧ニ  
モ神祇ニ出シタレハ其分ニモスヘシ但打越ヲ去ラ  
ハ可シトスヘシ

一 神樂堂

昔翁叅宮ノ時山田ニテ俳諧アリシニ  
神樂堂ト云句セラレシヲ後ニ御師何某難ノ曰  
世ニ俳諧ニ鳴ル芭蕉モ其道ナラヌコトニハ不案内  
シ堂トハ吾カ神道ノ詞ニアラス神樂殿トコソ



有へキナレト云リ此事翁ニ告知ラセタル者アリ  
翁ノ曰其神職ノ人神學ニ達セラレケレトモ俳  
諧ノコトハ習ナクテ學文ニテハナドテ知ラレヘキソ神  
樂殿ハ俳諧ニアラス神樂堂ニ云コソ俳諧平  
話ノ句法ナレ凡吾カ俳諧習ハ平話俗譚ノ世言  
行ル取テ直ニ云出スヲ以テ道トス文學ノウヘニ  
カハルコトニアラスト申サレケルトコソ是万事ニワタ  
リテ甚々感有ル事今神祇ノ部記スルニツイテ  
思出之ヲ、爰ニ書ス

一 釈

一 法印 法眼 尤僧官ニテ釈教ニ又醫者繪師等  
モアリ俳諧可得其意ヲ

一 厨クリハ 庖厨ハツキウトツキテ庖イキハ宰殺サイ 厨クリハ烹飪ニヤキ

スル取ナレ只臺取ノコト然ニ今クリト云ハ  
僧家ノ臺取トノミ覺エテ俗家ハ通セス依テ釈  
教トス但シ香積厨ノ三字或ハ庫裏ノ字ヲ可用

一 眠藏マンザウ 僧ノ寢取

一 頭陀トウダハ 僧ノ梵名ボウ又杜多ト書ケリ

一 鏡鉢キョウハチ 二種シ 鏡ハドラ則銅鑼ドウラシ鉢ハチハ銅鉢ドウハチシ  
同器ヲ合テ鳴スモノシ此二種ヲ俗合セ呼ンテ  
一種トヲモヘリ謬シ



戀

一 恨ノ山　ウラミヲツモレルヲ山ニ喩エタル詞也又名

取ニモ有 信濃国也

夫木　夕ツ子ハヤ心ノ末ハシラストモ人ヲ恨ノ山ノ通ル路　為定

一 夢　活法ノ書皆戀ノ部ニ記セルヲ以世上夢ト

サヘ云ハ　戀句ト思ヘリ蕉門ニハ捻シテ文字ヲ

以テ戀トハセス只其句情ヲ用ルシ姫娘野良傾城

夢涙句ニ依テ戀ニナラヌモノ多シ其中ニ夢ハ

殊ニ戀ニナラヌ夢トアリ可吟味ス

一 化カクラベ　實情ハウスクシテ互ニ恨ミツ恨ミレツ

哥ナト讀カハセルヲ云シ伊勢物語ニ吹風ニコソノ

櫻ハ散ラズトモアナ頼カタ人ノコ、ロハ女返レ行ク

水ニ數書クヨリモハカナキハ思ハヌ人ヲ思フシケリ

ナト云贈答數首アリテコト書ニ化カクラベカタニ

シケル男ヲシテノ恐ヒアリキシケルコト成ヘシト云ニ

一 夕卦トフト云ハ　夕タタノ卦ヲ尋ヌル　白ウラ方カタ也

一 虫ノ印　梅ニ守イモ宮ミヤノシルシノコト成ヘシ壁虎龍

盤魚トモニイモリト訓ス其血ヲ取テ女ノ身ニ点

ズルニ洗アイ落セトモヲチヌ　嬬事アレハ忽チハゲ立落ッ

故ニ印トス之ヲ　女ノ室宮ヲ守ルヲ以守宮ト云フト

初

終



淮南子博物志等ノ書ニ出ツ虫ノ印是ヲ云フ  
ナルヘシ但シ外ニ虫ノ印ト云戀ノ古事古哥ニ  
テモ有ヤ可尋

脱ク皆ノ重ニ上ニ方サナルハ守宮イモリノ印イモリ甲斐ヤナカラシ

一水祝 正月ノ季ニ水カケノ祝トアルモノ是レ冬妻ヲ  
迎ヘタル男ノ家ニ酒肴ヲ携タ行テ水ヲ祝ヒ浴セル  
コト昔東武ニ殊ニ盛ニアリテ互ニ恐ヲシ懼レヲ含ム  
基トナリ喧嘩鬪争不止依テ令世嚴制禁ト成テ  
水浴セノ名ノミ又知レリ

一思ヒサマシ 年来深クタノメタル中ノ人ノ中言カ又

思ヒノ外ニ化ナルコトアリテカ其思ヒノ忽サメタルシ

一背ツキノ中 是モ年コロ深ク思ヒカハシタル中ノ互ニ心  
中ニ根ムコト出来テ解サルシヨリ何事モ背ツキクニナルシ

一ウシロメタキ 我心ト了簡シテ物ゴトナグリニ濟セ  
トモ猶思ヒカヘセハ姑ツタキ心ウシロメタキ後ウシロメタキ姑ツタキ子トメト通語  
ナレハメタキト云シ伊勢物語ニ昔男色コノミト知  
クニ女ヲアヒイヘリケルサレトモ憎ニクハタアラサリケリ  
數ビイキケレド猶イトウシロメタクテ未略  
出テコレ跡タニイマタ替ラシヲ誰カ通路ト今ハナルシ



一 近ニサリ 近ヲトリ トモニ遠見ニテハ不知 近ク寄  
添ヒテ見レハニサリヲトリ有リト云言シ 又能ク馳  
近ツキヌレハ人ノ本情ヨク顯レテ心ノニサリヲトリ  
モ知ラレト云意ニモイヘリ

一 古サレ 流石ニアキアカレタルニハアラ子ト自然ト  
薄クナリ又不思ニ新シキコト出来テイツトナク  
薄ク成行タル戀シ

フルサル、身ニウキ秋ハツモレトモ我思卓色ハカハラス  
此哥戀哥ノ手本トソ人ハ我ヲ忘ルトモ我レハ  
忘レジト云カ風雅ノ本情戀哥ノ本意ト 古人  
皆評之ヲ 俳諧ノ句意尤同之ニ

忘ラレ、身ヲハ思ハス誓ヒテシ人ノ命ヲシクモ有カテ  
是又戀哥ノ手本右ノ歌ニ同シ

一 身ジロキ 身肌白キト云一義 又源氏物語ニ取ニ  
出タルミジロキト云詞ハ身退ノ略シ若菜ノ卷ニ  
大キナル猫ノ追ツキテ俄ニ翠簾ノツマヨリ走り出シ  
人ニシテヒへ騷キテソヨク身ジロキサマヨフ氣  
粧トモ衣ノ青ナヒ耳カシメシキ心地スト云ニ

一 親避中 此詞モ二義アリ 假令親トサカヒテモ  
我思モノニソヒトグベキト云一義 又深ク思ヒカハ  
セトモ親ノ副シ避テアハレヌト云一義シ



万葉 東路ノ佐野ノ船橋トノハテシ親シ避レハ妹ニアハヌカモ  
是親ニ割セラレテアハレヌ哥ニシ文字ハ休メ字ニ  
親ノ避レハ妹ニアハヌトシ

無常

一 塩干山 名取ニ茶毗取シ国未<sup>タ</sup>勤ト云リ万葉ニ哥アリ  
生死ノフタツノ海ヲイトヒ来テ塩干ノ山ヲ恐ヒツルカモ

一 アダレ野 非名取ニイツクニモアレ茶毗取ヲ指テ云シ  
化野ノ露<sup>アタレ</sup>露 鳥辺山ノ煙トツケタル鳥辺山ハ洛東ノ  
名取ニテ茶毗取シアダレ野ハ無常取ヲ指テ化野ト云義也

一 墓参リ 盆會ヲ主トスルニ依テ 秋季シ

家ハ三十杖ニ白髪ノ墓参リ芭蕉翁

一 魂ムスヒ 俗ニ人魂ノ飛フツミ時下ガノ裾ヲ結フト云シ  
魂ハミツ主ハ誰トカ知ラ子トモ結ヒハ留ツ下カヘノツニ

一 古キ枕古キ衾 <sup>フスニ</sup> 哀情シ源氏葵ノ卷ニ古キフスニ古キ  
枕誰トトモニカト云取ニ白氏文集ヲヒケリ鴛鴦ノ  
瓦冷ノ霜ノ花重シ 舊キ枕故キ衾誰與共ト云ニ文  
集異本アリテ翡翠ノ衾寒ノ誰与共ト云本有  
古文真室ニ載スルモ如此ニテ古枕古衾ノ句ナシ

迷懷

一 ミツワグム 極老ノ姿ヲ云 莊子ニ支離ト出タルモノ



龍下ニタレテ膝ト腰ト首ト三ツ組合セタルが如キノ  
者シ依テ支離ノ二字ヲミツワグムト訓セリ老カニリ  
タル姿則如此ナレハ哥ニ極老ノ姿ヲミツワグムト讀ム  
其元ハ莊子ノ本文ヨリ出タルハシ  
後撰  
年フレハ我黒髮モ白河ノミツワグムニテ老ニケル哉

一 命ノ字 一字ハナレテハ非述懐ニ露ノ命或ハ命ツレ  
ナキナント云ハ述懐シ

一 世帯 古家 句ニ依テ非述懐ニ句情ヲ可吟味ス

一 人ノ字 師ノ字 者ノ字 士ノ字 付クモノ皆人倫シ

一 僧ノ名 凡僧ノ名ハ和漢トモニ皆人倫シ 一宗ノ  
関山或ハ国師号大師号アル僧ハ名ヲ云イテモ  
非人倫ニ只僧トハカリモ非人倫シ

一 吉野国栖蝦夷ハ人ノ字イハストモ人倫シ

一 居  
モヤ 母家シシモヤシ只賤キ家シモ哥ニモヤ  
トヨメリ又廈屋シトモ云リ 廈屋ハ四方ニ軒  
アルヲ云トソニヤノアメリト哥ニヨメリアメリ  
トハ雨ダリノコトシ

一 阿屋 俗ニ破風ナキ家ヲアツニ屋作りト云

アツニヤ  
フカヒ



爾雅ニアツミヤハ四柱屋ノ戸壁ナキヲ云トソ江  
次才ニ字合屋ト書テアツミヤト訓セリ

夜

一有明残<sup>レ</sup>及残<sup>レ</sup>月 皆夜分<sup>シ</sup> 慥ニ朝時分ノ句ハ夜  
分ノガルコト勿論<sup>シ</sup>

一霰<sup>アラレ</sup>走<sup>リ</sup> カサレノ綿 正月十五日ノ夜<sup>シ</sup> 則正月踏  
哥ノ取ニ委<sup>ク</sup>記

一蠟燭 トホシタル句ナラハ夜分其名ハガリハ非<sup>ニ</sup>夜分  
ト云モ一理ナレトモ是等ノ類物ニヨル<sup>シ</sup> 或ハツケ木  
ナンド云モノハ火ノ燒<sup>ヤキ</sup>付ニ昼モ用ユ蠟燭挑灯

ナト云モノハ昼且<sup>テ</sup>不用モノ<sup>シ</sup> 盗人狐等昼モヨ  
トモ夜專<sup>ラ</sup>ナル故ニ急度夜分<sup>シ</sup> 蠟燭モ此類  
シ但<sup>シ</sup> 蠟燭屋ナトハ句ニヨル<sup>ヘシ</sup>

一紐<sup>ヒモ</sup> 活法ノ書夜分ノ取ニ出セリ是心得違<sup>シ</sup> 女  
ノ下紐ノ論ト混<sup>ノ</sup> 書タガヘタリトミエタリ 紐  
非<sup>ニ</sup>衣類<sup>ニ</sup> 非<sup>ニ</sup>夜分<sup>ニ</sup> <sup>シ</sup>

一油突<sup>アラツキ</sup> カハラケノコト<sup>シ</sup> 油盃<sup>アラフ</sup>ノ字宜<sup>シ</sup>トソ油續<sup>ツキ</sup>ハ  
油サレノコト<sup>シ</sup> 近頃狂哥ニ  
物ノ名モ取ニヨリテカハラケノ油突トモ又御盃<sup>キョウ</sup>トモ



一 其曉ト云詞 非夜分ニ 弥勒出世ノ曉ノヨ成ヘシ

一 禱<sup>シト子</sup> 非夜分ニ 尊貴ノ人ノ常ニ敷ク布圍シ

一 夜<sup>ヨ</sup>ブリ 夜方水边シ 川<sup>カトモレ</sup>照射シ 闇夜ニ炬<sup>タキツ</sup>ヲ灯<sup>トモレ</sup>テ  
河魚ヲ取<sup>ツ</sup>云則 漁炬ノ字ヨブリト訓ス

水

一 住吉ノ神 非水边ニ 名神ノ取ニ委記

一 八瀬 名取ノヤセハ非水边ニ 矢瀬トモ書リ

一 佐野ノワタリ 活法非水边ニ 取ニ出セルハ駒トメテ

袖ウチ拂フ陰モナシ 佐野ノワタリノ雪ノ夕暮ノ哥  
佐野ノ邊<sup>オトリ</sup>ト云意シト註セリ 是ヲ以テ 非水边ニ  
トスルカ

一 淀 ヨノ字ノ部ニモ 淀舩非水边ニト出セリ 淀ハ  
水流ノタルム取シ又名取ノ淀モ水郷シ何レモ水  
边勿論ナルヘシ

篋 纒 輪 下 終





跋

建治應あ乃式を幹一を案也此  
 子葉代くは増補一々牛乳角  
 乃尖く原向も如く緯のさ一合  
 白く一む人かな案世如く世に  
 申すも紅一考さし如くは  
 爰は河東の方竟使はるるを



是と拾めて千筋糸のむとほり  
糸原と解之甘蒸と嚼く佳境  
入れえ糸入かおと意あよへ  
漢の書中おのほり金糸は  
るりとおくと南云

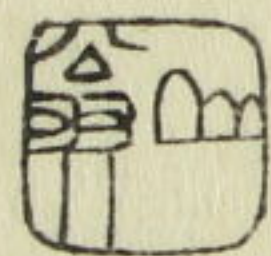
武江隠士 松籟菴秋瓜誌



皆寶曆第三 癸酉歲孟秋

方竟叟千梅

於江東閑窓選之



夕下

矣



書肆

皇都京極通二條上

井筒屋庄兵衛

二條通寺町西<sub>江</sub>入

柏屋四良兵衛

建仁寺町四條下

加賀屋宇兵衛



